



甲南大学

Welcome!

2026年度 経済学部
入門のしおり

甲南大学 経済学会

目次

まえがき	1
I 経済学部へようこそ	3
各経済学部教員からのメッセージ(五十音順)	5
II 経済学部の先生方に質問	27
各経済学部教員にアンケート(五十音順)	28
III 先輩からの学習アドバイス	73
IV 新入生へ卒業生からのメッセージ	79
「新入生のみなさんへ」源内 雄貴	81
「新入生のみなさんへ」濱田 美優	82
V 経済学会について	83
VI 甲南大学経済学会会則	87
総会規程・評議員会規程	90
卒業生会員細則	91

まえがき

入学生のみなさん、甲南大学経済学部へのご入学おめでとうございます。みなさんは、本学に入学し、経済学部生となると同時に、規約によって、《甲南大学経済学会》の会員となることになっています。みなさんが手にしたこの小冊子は、新入生を対象として作られた経済学部への案内書です。

この「入門のしおり」は、みなさんが経済学を学んでいく場を構成する甲南大学経済学部の教員、学生、そして、卒業生の方々の声で「経済学とその周辺を語る」という内容になっています。新入生のみなさんは大学に入学したばかりでまだ経済学部のことがよくわからないかもしれません。ぜひこの冊子を読んで、今後の学びの参考にしてください。

『Ⅰ 経済学部へようこそ』では、「2026年に大学生になる人へのメッセージ」をテーマとし、経済学部の先生方から新入生の皆さんへ向けたメッセージをいただいています。先生方の豊かな経験から紡がれた言葉が、皆さんのこれから始まる大学生活の糧になれば幸いです。

『Ⅱ 経済学部の先生方に質問』では、「甲南大学 経済学部生として充実した大学生活を送れるように」をテーマとした質問を先生方に答えていただいています。このページを見ることで、皆さん大学生活や経済学を学ぶことに対する恐れや不安が少しでも取り除かれることを願っています。

『Ⅲ 先輩からの学習アドバイス』では、1年生の必修科目である「経済入門Ⅰ」「経済入門Ⅱ」「入門ミクロ経済学」「入門マクロ経済学」の学習に関する在学中の学生からのアドバイスを掲載しています。

『Ⅳ 卒業生からのメッセージ』では、甲南大学経済学部を昨年度に卒業された方々からメッセージをいただいています。みなさんの先輩方はどのようなことをおっしゃっているのでしょうか。

『Ⅴ 経済学会について』では、「甲南大学経済学会」という組織について紹介しています。甲南大学経済学会とは、経済学部の教員・学生・卒業生が対等の権利を持って運営している自治組織です。新入生のみなさんの中には、「経済学会という組織のことがよくわからない」という人が多いかもしれません。そこで、「経済学会ってなんだろう？」というみなさんの疑問に対して、経済学会の具体的な活動やみなさんの交流の場である「経済コモンルーム」についても紹介しています。

はじめから読んでいく、好きなところだけ読むなど、利用方法はみなさんの自由です。この小冊子がみなさんの大学生活の手助けになれば幸いです。

2026年4月

甲南大学経済学会
評議員編集委員一同



経済学部へようこそ！

足立 泰美先生	5	中川 真太郎先生	17
石川 路子先生	6	林 健太先生	18
石田 功先生	7	林 亮輔先生	19
永廣 顕先生	8	平井 健介先生	20
岡田 元浩先生	9	宮尾 龍蔵先生	21
萩巢 嘉高先生	10	宮川 敏治先生	22
奥田 敬先生	11	宮本 舞先生	23
奥山 鈴香先生	12	村澤 康友先生	24
鎰谷 宏一先生	13	森 剛志先生	25
高 龍秀先生	14	森本 裕先生	26
小山 直樹先生	15		
寺尾 建先生	16		



大学生になる人へのメッセージ

足立 泰美

新たな学生生活への大きな一歩を踏みだした皆さん。小学校、中学校そして高校を経て、大学生活が始まります。期待が高まる思いで、いっぱいかと思えます。今までは、学校から決められた時間割りをこなす毎日だったのではないのでしょうか。1時間目は数学、2時間目は国語といった既に時間割が組まれた高校までの生活。しかし大学生活は違います。スケジュールは真っ白です。その白紙のスケジュールに、自分だけの予定表を創り出していきます。

まず、受講科目の登録が最初にあります。学士を取得するために、どの科目を、何単位履修しなくてはいけないのか。1年目には何を修めておかねばならないのか、2年目にはどの科目を選択しておくのが望ましいのか、3年目は1年目と2年目で培われた知識と経験をどう発展させていったらいいのか。シラバスを読み進めながら大学の所定の規定を理解し、興味のある科目、勉強してみたい科目もしくは単位を選択し、自分だけの唯一の時間割を作成します。その時間割が、将来の皆さんの人生に繋がります。そこには自由という名のもとで、自分の選択への責任という言葉が、背後にあります。

一日、一週間そして一月、自分が決めたスケジュールで生活を繰り返し送り、大学生活から社会人へと変わりゆくとき、この時間の積み重ねが、おもいおもいの力となり、自分が作ったスケジュールの責任をおいます。そこには一日24時間という制約された条件のなかで、自分の拘り定規で何に時間を投入するかを選択し、一定の成果を見いだそうとします。つまり、自分の選択が大学生活4年間の学業の蓄積と多様な見識となり、将来への道に繋がる原動力となります。

どうぞ新入生の皆さん、皆さん自身が自分の力で未来ある人生を築いていくことを切に願っています。

AI 時代に必要な力とは

石川 路子

ご入学おめでとうございます。この4月から始まる新たなステージ。皆さんの中には不安な気持ちを抱えている方もいるかもしれません。ただ、新たなスタートは、皆さんの可能性を大いに引き出すチャンスです。ぜひ何事にも怖がらずに挑戦してみてくださいと思います。

近年、私たちの社会は過去に例を見ないくらいのスピードで変化し続けています。その中でも AI (Artificial Intelligence) は人間の 10 万倍の早さで発達していると言われていています。AI とは人工知能を指し、この技術がさまざまな分野で応用されていく時代のことを AI 時代と呼びます。皆さんが生き抜くこの AI 時代にはどんな資質が求められるのでしょうか。

インターネットで「AI 時代に必要な力」と検索すると「チャレンジ精神」「主体性」、「発想力・創造性」、「対人関係能力」、「課題解決能力」などが出てきます。これからの時代は、人間は AI が難しいタスクを担うという点でも人間が優位性を持つ（と考えられている）これらの資質が重要であるとされていますが、私は改めて皆さんに「自分の頭で判断できる力」を身につけることをオススメしたいと思います。

これから皆さんは、課外活動の選択や就職活動時など、多くの場面で自分自身の意志が問われる場面に直面します。もし自身の将来の選択に迷い AI にアドバイスを受けることができたとしても、最後は自分にとってより良い選択肢は何かについて自身で判断できなければ、後に後悔や不満が残ってしまうかもしれません。AI に自分を支配されてしまわないようにするためにも、自身の判断力を信じる強さが求められるのかもしれません。

アメリカで著名な起業家イーロン・マスク氏は「たぶん、いずれ人類は絶滅する。おそらくはテクノロジーの進化のせいで」と述べているように、多くの専門家や研究者が「AI による人類滅亡」の危機に警鐘を鳴らしています。AI は私たちの生活を便利にする一方、私たちが自身の頭で考えることを辞めてしまえば、もしかしたら AI に支配される時代もそう遠くないのかもしれません。

自分の判断力を高めるためには、単に知識を詰め込むだけではなく、それを実社会でどう活かすのかを考えるなど、応用力を養うことが重要になります。応用力は新たなことにチャレンジしてみることで身につけることができます。これから始まる大学生活は、皆さんにとって判断力を養うチャンスを大いに与えてくれます。ぜひみなさんがこれから楽しく充実した大学生活を過ごされ、これからの社会に貢献できる人材となりそれぞれの夢を実現することを願っています。

未知の AI 時代を歩む思考基盤としての経済学

石田 功

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

皆さんが高校生活を始めた頃、ChatGPT の登場をきっかけに生成 AI は一気に普及しました。今では、AI は生活に溶け込んだ自然な存在になっています。しかし、それは決して「考えなくてよくなった」ことを意味しません。むしろ逆です。AI が誰にでも同じ水準の答えを返すようになったことで、「何を問うか」「その答えをどう疑うか」という個人の能力差が、以前よりも如実に可視化される時代が始まっていると言えるでしょう。

AI の技術的進化はとどまるところを知らず、将来、人間の知的作業の多くが自動化される日が来るかもしれません。しかし、少なくとも当面、私たちが主導権を手放さないために不可欠なものがあると考えています。それは、複雑な現実をどう抽象化し、そこにどのようなメカニズムを見出すのかという、「思考の基盤」です。もちろん、世界を読み解くツールは経済学だけではないですが、皆さんは経済学部の門を叩きました。ならば、「経済学固有のレンズ」を徹底的に使いこなせるようになることこそが、これからの激動の時代を歩むための、ひとつの有力な手段になるはずです。

その中核となるのが、ミクロ経済学・マクロ経済学・計量経済学という三つの共通言語です。これらは、単なる知識でも、目先の試験をクリアするためのテクニックではありません。社会現象を「インセンティブ (誘因)」、「市場均衡 (全体のつり合い)」、そして「戦略 (駆け引き)」といった概念で構造化し、データから傾向や相関を読み解き、さらに「因果推論」の手法で検証するための、確固たる思考基盤です。

計算や翻訳、プログラミングといった多種多様な知的作業は、これからますます AI が肩代わりしてくれるでしょう。その一方で、AI の出力をそのまま鵜呑みにする人と、「その前提条件は何か」「別の変数が影響しているのではないか」と論理的に問い返せる人との間には、埋めがたい差が生まれるのではないのでしょうか。

実際、経済学部のゼミではここ数年、学生の研究の進め方に明らかな質的变化が起きているように見受けられます。英語文献の読解やデータ処理といった技術的なハードルが AI によって下がった結果、研究が単純に「楽になった」わけではありません。むしろ、そこで生まれた余力を、より複雑で高度な分析や本質的な問いに振り向けた学生は、より高い領域へ進むようになってきていると感じています。

これからの 4 年間、AI を便利な道具として使い倒しながら、この「経済学の思考基盤」を、自分自身の OS として組み込んでください。AI が提示するもっともらしい答えを鵜呑みにせず、自らの頭で検証し、最終的な判断を下せるようになること。皆さんが経済学部で、そのための視座と判断力を獲得されることを期待しています。

大学で経済を学ぶみなさんへ

永廣 顕

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

これからみなさんは、4年間、甲南大学経済学部で経済を学ぶことになりましたが、そもそも経済とはいったい何なのでしょう。

現代においては、家計（個人）が企業（会社）に労働や土地を提供し、企業が財・サービス（モノ）を生産しています。家計は企業から受け取った賃金など（カネ）でモノを購入し、それを消費して生活しています。しかし、残念なことに、この状況がうまく続いていくとは限らず、さまざまな問題が発生します。そこで政府（国や地方自治体）が登場し、問題を解決しようとし、（この政府の活動を財政といいます）。このように、経済とは、私たち人間（ヒト）が生活していくための活動であり、それをめぐる家計・企業・政府の相互の関係から導かれるヒト・モノ・カネの動きなのです。すなわち、私たち人間の生活そのものなのです。

したがって、「経済を学ぶ」ということは、私たち人間の生活を「しっかりと見る」作業となります。それは私たち自身の「生き方を考える」ことにつながり、「生き方を考える」ためには経済について勉強することが必要となります。そこでは、高校までの勉強のように、正解とされていることをただ暗記して調べるだけの学習にとどまるのではなく、自身が置かれている現在の状況と自身が進もうとする将来の目標に即して、正解とされていることが本当に正しいのか、自身にとって何が正解であるのかを、自分の頭で考え抜いていくことが非常に重要となるのです。

そのためには、経済について体系的に勉強することが必要です。しかし、その機会を大学以外の場で得ることは難しいでしょう。しかも思う存分勉強ができる大学での4年間はあっという間に過ぎてしまうのです。

大学生生活のスタートラインに立ったみなさんが、これから有意義な4年間を過ごせることを心から願っています。

お金なるもの

岡田元浩

4年間にわたる経済学部生としての学びを通じて、みなさんにまず知ってもらいたいことは、世の中や私たち自身の生活においてお金というものがもつ重みです。私の知人のひとは、「経済学部は金儲けの仕方を学ぶところ。経済学部に入っても金儲けの仕方を学べないようなら、意味が無い」と言いました。みなさんが大学での授業を受ければ、経済学部や経済学の実態がこうした見方とかけ離れていることが、ほどなく分かるでしょう。しかし、私の知人の上記のような考えは、案外世間の多くの人々が抱えているものではないかと思われまます。それはまた、お金というものがこの世の中でいかに絶大な威力を有しているかの現れであるともいえます。もちろんみなさんも、これまでの人生の中で、お金のもつ重みに気づいてきたことでしょう。そしてこれからは、経済学を通じ、改めてこの重たさをより深く認識してほしいと思います。

経済学部での学びからは是非ともみなさんに知ってほしい、もうひとつのことは、お金にひれ伏さない品性の大切さです。私が尊敬して止まない、近代日本を代表する大作家である夏目漱石は、経済学者以上に鋭く、金力の乱用がもたらす破壊的作用を強調しました。「金銭というものは・・・人間の精神を買う手段に使用出来るのだから恐ろしいではありませんか」（「私の個人主義」より）と漱石は言いましたが、実際、お金次第で、家族関係や友情にさえも容易に亀裂が生じてしまい、果ては世界が闘争に満ちた場と化してしまうのです。お金がすべてでない、これは真理ですが、それを私たちの実生活において全うするのは、決して容易なことではありません。それほどお金の力は大きいのです。そしてこの魔性に圧倒されないためには、私たち自身の品性を磨き上げる不断の努力が必要です。甲南大学は「人物教育」を謳っていますが、この品性の涵養はその最たるものであると、私は考えます。

新入生のみなさんへ

萩巢 嘉高

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。大学生活、そしてそれ以降の生活を楽しむために、何をすればよいでしょうか。人それぞれ答えは違うと思いますが、ここでは私が個人的に重要視しているものを紹介したいなと思います。

1. 人とのつながりを大切にしよう

みなさんがこの甲南大学経済学部に入學してきた背景には、きっとみなさんそれぞれの理由があるのかなと思います。就職のために学位が欲しい、経済学を学んでみたい、部活動やサークル活動で活躍したい、ひとまず進学してこの先の進路をじっくり考えたいなど、おそらくもっといろいろ細かな理由も人それぞれあるかと思えます。これらの背景は十人十色とはいえ、同じ門戸を叩いた者たち同士、ここで出会う人々とのつながりをぜひ大切にしましょう。世間は案外狭いものです。

2. 人よりちょっと得意な技能を手に入れよう

これは、どちらかといえば大学生活中よりも、社会人になってから大切になることです。ずば抜けて何かができる必要はありません。平均と比べて、自分は「これは人より得意だな」と思えることがあれば、素晴らしいです。別に1番にならなくてもいいです。なんでだろうと思う人は「リカードの比較優位」について調べてみてくださいね。ちなみに、私が個人的におススメする技能を3つほど挙げるとすれば、「プログラミングスキル」「文章作成能力」「粘り強さ」でしょうか。

3. 教養を手に入れよう

本を読むなり映画を見るなりするのはとても大切です。教養（あるいは知識）があれば、楽しめる物事がとても多くなります。ぜひいろいろなことを学んで、修めましょう。

「講義の単価」？

奥田 敬

ご入学おめでとうございます。

早速ですが、大学生活の始まりにあたって気に留めておいていただきたいクイズを一つ。

【設問】

大学における1コマ90分の講義の(学生にとっての)単価を算定せよ。
ただし、単純化のため、4年間の学費総額は教科書代も含めて400万円とし、その間の機会費用(生活費やアルバイト収入など)は度外視する。

【解法1】全く無駄なく、最小費用最大便益で卒業を目指す。

卒業所要単位数は128単位、1単位につき $4,000,000 \div 128 = 31,250$ (円)
半期15週で2単位なので、 $31,250 \times 2 \div 15 = 4,166.66\dots$

答え 約4,200円

【解法2】折角だから(単位取得とは無関係に)聴講・質問しまくる。

1週間30コマ、通年で $30 \times 15 \times 2 = 900$ (コマ)だから、
 $4,000,000 \div (900 \times 4) = 1,111.11\dots$

答え 約1,100円

【解法3】4年分の在籍料と割り切り、出席も留年も気にしない。

1日あたりの在籍料は、 $4,000,000 \div (365 \times 4) = 2,739.72\dots$ (円)
90分あたりに換算すると、 $4,000,000 \div (365 \times 4) \div 24 \times 1.5 = 171.23\dots$

答え 約170円

実は、これは1990年に小生が本学に着任した直後に熱心な新入生から突き付けられた難問です。経済学部生なら一応【解法1】が正解か？

でも、その時の質問者の本意は【解法2】と見受けました。【解法3】は(バブル期の名残めいて)時代遅れでしょう。

もっとエレガントな別解があればお知らせください。

新入生の皆さんへ

奥山 鈴香

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。きっと、これからの学生生活に期待や不安を持たれていることと思います。

みなさんは、これまでの受験勉強を終え、大学入学後は4年間経済学を学んでいくことになります。では、高校における勉強と大学における勉強の違いはなんだと思われるでしょうか。さまざまな意見があるとは思いますが、私は、ゼミの先生からその違いは「論理的に考えること」だと教わりました。高校までの勉強は、物事を覚える、知識を得るのが大きな目的なのではなかったでしょうか。一方で、大学での勉強は、事例やデータという根拠から論理的に考えて自分の意見を持てるようになることも求められます。ぜひ、論理的に考える力を養ってください。

さて、大学生には、自由な時間がたくさんあります。もちろん、単位をとって卒業するのは大事ですが、それだけではなんとももったいないです。先入観を持たずに様々なことに興味をもって、新しいことにどんどん挑戦してほしいと思います。例えば、旅をするのもよいでしょう。10年後、20年後、どんな学生生活を送っていたら後悔がないでしょうか。じっくり考えてみてください。大学生のうちにしかできないことに挑戦しましょう。

つらいことや大変こともあるかもしれませんが、4年間の学生生活を楽しまれることを願っています。

経済学部に入學した皆さんへ

鑑谷宏一

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これからどのような大学生活が待ち受けているのか、期待に胸を膨らませていることだと思います。

さて、経済学部に入學した皆さんは、大学生活においてどんなことを学ぼうとしていますか？もしかすると、大学では経済学の△△を勉強して、卒業したら〇〇という仕事に就きたいというキャリア・デザインをすでに持っている方もいるかもしれません。それはそれでとても良いことだと思いますし、目標に向かって励んでほしいと思います。ただ、これから何を学ぶかについては、もう少し気を楽にしても良いかもしれません。

そもそも、皆さんは、経済学がどのような学問なのか、経済学にはどのような分野があるのか、ということをよく分かっていませんよね。他の学問についても同様だと思います。また、世の中にはどのような仕事があって、そこでどんなことが求められるのかということも詳しくは知りませんよね。さらに、誰にも分からないことですが、これから社会がどのように変化し、どんな仕事が無くなったり生まれたりするのかというようなことも分かりませんよね。そのような状況においては、「面白そうだから」、もしくは「何だか気になるから」といった理由で何かを積極的に学んでみようとするのも大切ではないかと思えます。もちろん、学問以外においても自分のアンテナに引っかかるものごとを積極的にやってみることも大切だと思います。

大学の4年間という時間は、自由が利く時間です。このような時間は社会に出てからはまず手にすることはできません。ただ、大学の4年間は長いようで、あっという間に過ぎてしまいます。皆さんには、この貴重な時間を使って、様々なことに挑戦してほしいと思います。そして、卒業するときに、その時の自分と入學したての現在の自分を比べてみてください。どんな風に変化しているのでしょうか？もしかすると、卒業する時には、現在想像できる自分ではない自分になっているかもしれません。

皆さんが充実した大学生活を過ごされることを願っています。

大学生になる皆さんへ

高 龍 秀

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。みなさんと一緒に勉強ができることを嬉しく思います。大学生になりみなさんは多くの夢と希望を持っていることと思います。大学に入ってその夢に一歩ずつ近づいてほしいと思います。

大学に入って、まず、世の中の出来事に関心を持って下さい。ウクライナの戦争、米トランプ政権によるイランやベネズエラでの軍事行動、日本での総選挙など世界は目まぐるしく変化しています。物価高の中で、日本の新政権は経済政策を議論しています。どのような経済政策を行えば日本がより幸せな社会になることができるのでしょうか。みなさんが就職活動をする頃には日本社会はより良い状況になっているのでしょうか。トランプ政権が日本に厳しい要求を突き付けてきたときにどう対応していけばいいのでしょうか。世の中を見渡せば、このような複雑な問題がいっぱいあります。それは仕方ありません。私たちの住んでいる現代社会がとても複雑だからです。

みなさんが入った経済学部ではこの複雑な現代社会について、入門的な課題から一歩ずつ学んでいきます。みなさんの勉強の対象となる現代の経済は複雑ですから、「答えを簡単に求めない」ことが大切です。大学受験までは、「1つの決められた答えにいかにか早くたどり着くか」という勉強スタイルだったと思います。例えば社会系の科目では「覚える」科目が多かったと思います。しかし最初に述べた現代社会の問題では、答えは決まっていないものもあります。また、答えが1つでないものもあります。ですから大学では、基本的な事実を「覚える勉強」とともに、その知識を武器により複雑な現象を論理的に考えていく勉強をしなければなりません。そのような勉強を2年生以降のゼミなどの科目で行うことになります。そこでは答えを簡単に「見つける」勉強ではなく、これまで学んだ知識をもとに時間をかけて「より深く考える」勉強が求められています。

みなさんの努力次第で「深く考える力」が付き、大学卒業までの4年間で大きく視野が広がることと思います。そのことで、「いい就職ができる力」という次元だけでなく「この社会を生きていく力」をつけることができるはずです。大きな可能性がある未来に向かって、ぜひ頑張ってください。

2026年度に大学生になる新入生へのメッセージ

小山 直樹

私が担当している統計入門という科目は、1年次配当の選択必修科目です。統計入門では、経済学の研究で用いられる統計学(データ分析の基礎)を学びます。統計学は、経済学において経済現象の実態を数量的に捉える方法として昔から重視されています。経済学のどのような分野・ジャンルにおいても、データを通して現象の実態を調べることは「経済現象を理解する」基礎になっています。ですから、経済学を学ぶ学生のみなさんは、最低限、統計学の基礎を履修する必要があります。

甲南大学経済学部での4年間において、学生のみなさんが、「自分はなぜ経済学を学ぶのか」、「実際に学んだ甲斐があったか」を繰り返し自分に問いかけることで、「自分にとっての経済学を学ぶ意義」を自力で発見することが大切です。そして、卒業するとき、『自分が学んだ経済学とはこういうものだ』と振り返ることができたなら上出来です。

最後に、せっかく甲南大学経済学部に入学したのですから、キャンパスライフを存分に楽しんでください。

〈大学生のうちにすべきことは、何ですか？〉

てら お たける
寺尾 建

大学生になると、高校のときまでのような「クラス」はなくなり、「担任」の先生もなくなります。人によって「時間割」が異なることも普通になりますし、誰の目にも一目瞭然であることでいえば、「制服」はありません。このようなことから、みなさんのなかには、「生き方の“正解”が、突然なくなってしまった」と感じている人も少なくないかもしれません。

しかし、人生全体の観点から考えてみると、「他の人と同じである」と言えることが多かったこれまでの時期の方が、むしろ特殊だったのです。大学を卒業した後には、「友人と同じ会社に就職する」ということはまずありませんし、さらに言えば、各人の人生が、その終え方と終える時期も含めて、それぞれ異なったものになることが明白になります。というよりも、そもそも、誰もが、生まれたときから最期の時まで別々の人として別々の人生を歩むのであり、同じ人として同じ人生を歩む人は、二人といません。

以上のことをふまえるならば、このたび大学生になったみなさんには、「大学生のうちにすべきことは、〇〇である」といった類の物言いに囚われることなく、大学生活を自由に過ごしてほしいと強く思います。

知識や経験が乏しいなかで考えた「将来の役に立つこと」は、まず役には立ちません。なぜならば、知識や経験が乏しいとき、「将来」とは現在の延長線上を想像しているにすぎず、かりに「役に立つ」と判断できるとしても、その際に用いる基準自体が適切ではないことが疑われるからです。

「将来の役に立つか否か」なんてことは後回しでよいので、大学生活では、自分がとことん好きになって溺れてしまうものを見つけることを最優先にしてください。そのことこそが、将来、あなたを助けてくれるはずです。

自分で選んだ、他の人と違う人生は、それなりにしんどいところもあります。自分で選んだ以上、他の誰のせいにもできないからです。しかし、他の誰かのせいでできる人生は、そもそも自分の人生ではないはずです。

大学生活では、自分が自分であることを、何よりも大切にしてください。

スティーブ・ジョブズが大学で学んだこと

中川真太郎

少し古い話をしましょう。米国のアップル社を創業したスティーブ・ジョブズは、かつて、スタンフォード大学の卒業式でスピーチをしたことがありました。このスピーチはインターネットで配信されており、今では有名になっていますが、そこで彼は自分の大学時代について話しました。

彼は米国オレゴン州にある大学に進学したのですが、入学後半年で大学を中退してしまったそうです。中退後しばらくは、友人の部屋に居候して、興味のある授業だけを聴講していたといえます。

当時受けた授業の1つにカリグラフィーの授業がありました。カリグラフィーとは、いわば、西洋の書道です。日本の書道に楷書、行書、草書など様々な書体があるように、西洋にも様々な書体があります。彼は、カリグラフィーの授業で、美しい書体はなぜ美しいのかを学んだと話しました。

カリグラフィーはテクノロジーにもビジネスにも関係がないように見えます。彼自身も、当時、その勉強が何かの役に立つとは思わなかったそうです。しかし、約10年後、彼がアップルコンピュータ社（現在のアップル社）で、マッキントッシュの開発に携わったときに、カリグラフィーの知識がよみがえって、美しい書体をいくつも利用できるようにOSを設計したそうです。その結果、コンピュータ上で印刷物の版下を制作するデスクトップパブリッシングが生み出され、出版の世界に革命的な変化が生じました。これを彼は、点（dot）と点がつながったと語りました。

私自身、これまでの人生を振り返ってみても、大学で学んだことが予期せぬ形で役に立ったことは、何度もありましたし、今後もそういうことがあると思います。大学で学ぶことは、今すぐ役立つとは限らないし生涯役に立たないかもしれませんが、しかし、年を取ってから深く理解できることもたくさんあります。

新入生の皆さん。大学では単に卒業のために合格点を取る勉強をするだけでなく、それを超えて、自らの知的好奇心や情熱に応じて、様々なことを勉強してください。いつか、点と点がつながることでしょう。

新入生の皆さんへ

林 健太

このたびは甲南大学経済学部へのご入学、誠におめでとうございます。

さて、皆さんは今、激動の時代を生きているという実感をどれ程お持ちでしょうか。2023 年を境に、世界は一つバージョンアップを果たしました。具体的には、ChatGPT に代表される生成 AI（人工知能）が登場し、これまで人間の行ってきた作業を代替するようになったのです。

このように、新しい技術が登場し普及すると、それに合わせて私たちの考え方も変わっていかざるを得ません。これまで是とされてきた「時間を正確に守る」、「多くの知識を身につける」、「的確に指示をこなす」といったことは、まさに AI の得意分野であり、そう遠くないうちに、人間がやる必要性はなくなっていくでしょう。

ではそのような社会において、私たちはどのように生きていけば良いのでしょうか。人間にしかできないことは何か、それは「効率の悪い（一見、無駄と思える）ことを楽しむ」ことだと思います。

大学で送るリアルな生活を想像してみてください。時間割を組む、学内で友人を作る、クラブ・サークル活動を選ぶ、朝早く起きて授業に出席する、所属するゼミを選ぶ、レポート課題をこなす、定期試験を受ける、恋愛する、留学する、趣味に没頭する、就職活動を行う等々・・・、どれもこれも、時間や労力（＝コスト）がかかるものばかりですね。実にタイムパフォーマンスが悪い。

だが、それがいい！

どれだけ張り合おうとも、AI の得意分野で人間は AI に勝てません。ならいっそ、時間のかかる作業は AI に任せ、浮いた時間を何にどう使うかを在学中に考えてみませんか？それこそが究極の経済学なので、といた四方山話を、皆さんと大学でできるのを楽しみにしています。

「将来のために」を意識しようー人生 100 年時代の社会人基礎力ー

林 亮輔

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学で送る 4 年間は、皆さんにとって（おそらく）人生最後の学生生活となります。サークル活動、部活動、アルバイト、留学など、比較的自由度の高い大学での時間をどのように活用するか、様々な夢を膨らませていることでしょう。大学での 4 年間は、皆さんが考えている以上にあっという間に過ぎていきますので、少しでも気になることがあればチャレンジすることを恐れず、大学生生活を充実したものにしてほしいと思います。

入学直後の皆さんにとっては気の早い話かもしれませんが、学生時代を助走期間に例えるなら、4 年後、皆さんは自分自身の力で社会に飛び立たなければなりません。社会では学生時代に培った様々な能力が試されますが、学生時代にどのような能力を身につける必要があるのでしょうか？

2018 年、経済産業省は、社会や組織で活躍し続けるために必要とされる基礎的な力として「人生 100 年時代の社会人基礎力」を提唱しました。社会人基礎力は「一步前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力」、「疑問を持ち、考え抜く力」、「多様な人々とともに、目標に向けて協力する力」という 3 つの能力によって構成されており、この社会人基礎力を身につけることが学生である皆さんには求められているのです。

大学は専門性の高い知識を学ぶ場であるとともに、それらの知識を得るプロセスを通じて社会人基礎力を高められる工夫が散りばめられています。しかしながら、大学に在籍しさえすればこれらの能力を高められるわけではありません。腕や足の筋力をつけるにはトレーニングが必要なように、脳の力を高める際にもまたトレーニングが必要なのです。

したがって、皆さんには学業にも積極的に取り組んで欲しいと思います。サークル活動やアルバイトを通じて高められる能力と学業を通じて高められる能力は異なることから、「将来のためにどの能力を高めなければならないか」を常に自問自答し、大学を卒業する際には確かな成長が感じられるよう、充実した大学生活を過ごされることを願っています。

「分解」すると世界は変わって見える

平井健介

もしあなたが、「日本の犯罪を減らすにはどうすればよいか。ただし人口100人当たりの犯罪者数は、日本人が16人、日本在住外国人が24人である。」と問われたら、どのように答えるでしょうか。「犯罪率の高い外国人を排除する」という結論を導くでしょうか。正解かもしれません。

しかし、ここでは2つの仮定を置いて、もう少し考えてみたいと思います。第1に、「外国人は、日本人よりも社会的地位や所得が低い」という仮定です。外国人は、言語の壁や経済活動を制限する法律などの影響により、相対的に社会的地位が低く、低賃金の仕事に就かざるを得ない場合が少なくありません。第2に、「社会的地位や所得が低い人の方が、犯罪に手を染めやすい」という仮定です。社会的地位や所得が低い人は、相対的に犯罪によって得られるものが大きく、失うものは小さいと考えられるため、犯罪に手を染めることへのハードルが低くなる可能性があります。

以上の仮定が成り立つとして、それを反映した次の表を見てください。

	日本人の犯罪率	外国人の犯罪率
全体	16% (16/100人)	24% (24/100人)
高い地位・所得	10% (7/70人)	10% (3/30人)
低い地位・所得	30% (9/30人)	30% (21/70人)

この表が示しているのは、国籍や民族によって犯罪率に差があるように見えても（日本人16%、外国人24%）、社会的地位・所得で「分解」してみると犯罪率には差がない（日本人・外国人ともに10%または30%）可能性があるということです。この場合、外国人の排除に意味はなく、問題への答えは「社会的地位や所得が低い人がいる状況を改善する」となります。

このように、「分解」することで、世界の見え方は大きく変わります。私たちは物事を進める際、世界を単純化し、歯切れの良い答えを出しがちです。しかし、あなた自身がそうであるように、現実の世界は複雑で、とても一言では表現できないものです。大学での学びを通じて、単純化されていく世界を丁寧に「分解」し、再構成する能力を養ってください。

新入生の皆さんへ

宮尾 龍蔵

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから始まる大学生活は、皆さんにとって非常に大きな意味を持つものになることでしょう。新しい環境で、学問に向き合うことはもちろん、さまざまな人と出会い、貴重な経験を重ねていくことになります。

経済学部での学びは、単なる知識の習得にとどまらず、物事の考え方や視点を広げることに大きな意味があります。経済学の学びは実社会にも直結しているため、普段の生活やニュースの理解にも大いに役立ちます。経済政策や市場の動きがどのように人々の生活に影響を与えるのか、様々な社会問題の背景に何があるのかなど、広い視野で物事を捉え、俯瞰して考える力をぜひ養ってください。

大学では、高校までとは違って、自分で時間を管理し、学びを深めていかなければなりません。大学では自分のペースで進める部分が多いため、自由でありながらも自己管理能力が試されます。計画的に勉強を進めることはもちろん、仲間との意見交換や先生方への質問なども積極的に行って、主体的な学びをぜひ深めていってほしいと思います。

大学生活は、学びだけではなく、人生の中での貴重な経験の場でもあります。クラブ活動やサークル、アルバイト、ボランティア活動や旅行など、さまざまな機会を活用して、自分を成長させていってください。学外の活動や経験を通じて異なる考え方に触れ、自分の視野を広げることができるのも大学ならではの醍醐味です。

これからの4年間、多くの仲間や先輩・後輩、先生方と出われるかと思えます。「人との出会い」は、大学生活の中で最も価値あることの一つであり、大切な宝物となるでしょう。

皆さんの前には大きな可能性が広がっています。多くの良き出会いに恵まれ、充実した日々を送られますよう、皆さんの学びと成長を心より応援しています。

「ゼミでの研究」のすすめ

宮川 敏治

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。まずは、あまり堅苦しく考えず、4年間、何でも良いので「一生懸命になれるもの」を見つけてください。その「一生懸命になれるもの」はこの先、必ずみなさんの人生を助けてくれます。

この（大学時代に）「一生懸命になれるもの」として、少人数の「ゼミ」での「研究」をおすすめしたいと思います。例えば、私のゼミでは、5人程度のグループで、それぞれに研究テーマを決めて、1年近くをかけてそのテーマを研究しています。具体的には、独自の仮説を立て、アンケートや実験を通じてデータを収集し、その研究成果をプレゼン大会で研究成果を発表する、という手順で行われます。

このグループ研究を通じて、

1. みんなで一つの目標に向かって頑張る楽しさを知る
2. 互いの意見を尊重しながら、議論するやり方を知る
3. 自分たちにしかできない研究成果を上げることで学問の楽しさを知る
4. データを科学的（統計的）手法で分析できるようになる
5. 視覚にうったえる資料（パワーポイント）を作成できるようになる
6. 人前で堂々とプレゼンテーションができるようになる

といった（就職活動のみならず）実際に社会にでてからも役に立つ「技術」や「技能」を身につけることができます。大学時代に全力を傾けてやってみる価値は十分にあります。

「一生懸命になれるもの」は、勉強以外のものでも良いのですが、大学教員が経済学の専門家として、特にお手伝いできるのは「ゼミでの研究」です。「ゼミでの研究」は、高校までの受験勉強では得られない大学ならではの勉強の醍醐味（いわゆる「学問する」ことの醍醐味）を味わせてくれること間違いなしです。

良かったら自分が興味を持った研究ができる先生の研究室のドアをノックしてみてください。

新入生の皆さんへのアドバイス

宮本 舞

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。僭越ながら、皆さんへ大学生活を送る上での3つのアドバイスをお伝えしたいと思います。

(1) 高校までと大学での学びには大きな違いがある。

高校までの勉強では、テストや入試でよい点数をとることが大きな目的の1つであったかもしれませんが、しかし、大学では学ぶ「力」を身につけることが重要です。例えば、自分で問題を発見する「観察力」や、その問題を解決するための「考察力」や「行動力」。これらの力を身につけるためには、時には答えのない問題に直面する場合があります。この違いに最初は苦戦するかもしれませんが、その違いを楽しんでください。

(2) 社会人には時間がない。

私自身も働き出して痛感しましたが、皆さんの想像より働き始めると自分の自由になる時間が少なくなります。ぜひ国内外へ旅行に行ったり、留学にチャレンジしたり、貴重なこの4年間を実り多いものにしてください。また、すぐに身近でできることでは本をたくさん読むことをお勧めします。国内外、新旧様々な本を読むことはきっと今後の財産になると思います。

(3) いろいろな人との交流を。

大学には、学生も教員もいろいろな人がいます。また、行動範囲が広がることによって、学外で出会う人の幅も広がることでしょう。お手本にしたい人が見つければ、その人から多くのよい面を吸収してください。「人のふり見て我がふり直せ」とも言いますが、よくない手本が見つかったならばそこから学ぶことはあるかもしれません。また、いろいろなタイプの人との交流の仕方も学んでください。

皆さんの学生生活が充実したものになることを心から願っています。また、皆さんの学生生活がより良いものになるように微力ながらサポートできれば幸いです。

個のレベルアップを目指そう！

村澤 康友

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

甲南学園を創立した平生鉢三郎は、旧制甲南高校の校長を務めていた頃、折に触れ「健全な常識を持った世界に通用する紳士たれ」と訓示し、「世界に通用する紳士・淑女たれ」は甲南学園の建学の精神を表す言葉となりました（LGBTに配慮するなら「世界に通用する人物たれ」と言うべきかもしれません）。

それでは世界に通用する人物になるためにはどうしたらよいのでしょうか？

2014年のFIFAワールドカップの頃、「日本のサッカーが世界に通用するためにはどうしたらよいか？」との質問に対し、当時の日本代表の選手たちは口を揃えて「個のレベルアップです」と答え、多くの選手が海外のチームに移籍しました。同じように、世界に通用する人物になるためには個のレベルアップが必須だと思います（もちろん海外生活を経験して世界を知ることもお勧めです）。

甲南学園の建学の精神は「人格の修養と健康の増進を重んじ、個性を尊重して各人の天賦の特性を伸張させる」というものですが、「個性を尊重して各人の天賦の特性を伸張させる」は「個のレベルアップ」と解釈できます。また甲南大学の「彩り教育」（＝自分の目的に応じて選択できる、甲南大学ならではの彩り豊かな教育プログラム）は、どのような方向であれ、皆さんの個のレベルアップに役立つはずで、例えばデータ分析のスキルアップを目指すなら、私もお役に立てると思います。

皆さんが甲南大学で個のレベルアップを目指し、世界に通用する人物に成長されることを期待しています。

経済学部生へ

森 剛志

真実を求めて・自分の頭で考えて！

若い時代は、「人生まだまだ長い」と思います。大学生になったばかりには、「大学4年間はなんと長いのだろう」と思うでしょう。でも、振り返ると、毎日すぐ過ぎ去ることがわかります。1年生の時が100とすると、2年生は70くらい、3年生は50くらいで、4年生は20くらいの長さを感じられるでしょう。

大学一年生のときには、できるだけ多くの人と友人になり、仲間作りをして、勉強しやすい環境をつくるといいと思います。

実は、人の幸せはいろいろなところに転がっているものです。学生時代には多くのお金はありませんが、実はそれが幸せだったりします。お金があつて、親から買ってもらった車をみせびらかせて乗りまわっている学生もいるかもしれませんが、決してこのタイプの人が幸福とは限りません。貧しさの中で、清貧を楽しむとき。しずかに読書して、知らない世界に思いをはせるとき。普通のなんでもない生活でも、幸せは数え切れなくあります。

人生では、うまくいかないことがあります。どうしようもないほどの屈辱をうけることもあります。でも、いつも心にバランスを持ってください。そして少しの勇気と情熱を持てれば、さらによいです。自分の大切な青春の時間を時給1000円で売ったりせず、自分の時間を大切に。

2020年は100年に1度という出来事が、いくつもありました。コロナウィルスの蔓延、香港の出来事、普通でないアメリカ大統領選。2022年も普通でない米国上院選、大国が停戦介入せずに長引くウクライナ戦争。事実は何かわからない混とんとした社会になりました。

でも、真実を求めて、真実を探し求めることです。自分たちの同じ年代の10代・20代の若者が必至で自由と民主主義のために戦っています。真実を求めて、マスコミを信じないで、自分の頭で考えて！

大学での「答えがない」学びとは何か？

森本 裕

みなさん、ご入学おめでとうございます。これからの学生生活にワクワクしたり、逆に不安になったりしている人も多いことと思います。

さて、高校までの勉強と、大学の学問はどう違うのでしょうか？「大学での学びには答えがない」と聞いたことがある人もいるかもしれません。「答えがない」とはどういうことなのか？高校までは、教科書の内容が「正解」でした。それは、専門家が十分に検討して、間違いない内容が教科書には書かれているからです。逆に、大学では今現在課題となっていることを学びます。課題への解決策はだれにも分からないので、「答えがない」のです。

- ・日本経済がデフレから脱却するためにどうすればいいか？
- ・どうすれば地方を活性化することができるか？
- ・子供の数を増やして、少子化をとめるためにはどうするべきか？

どれも日本の将来を左右する大きな課題ですが、これらに対する処方箋は誰も知らないのです。だから、日本の将来を背負っていくみなさんが、どうすればいいのかを一生懸命考えなければなりません。そのための知識を身に着け、訓練するのが大学での学びです。授業で専門知識を学び、ゼミで先生や仲間と議論して、課題解決力を伸ばしてください。

また、大学の中だけではなく社会や世界を幅広く知ることも大切です。旅行をするもよし、留学するもよし、ボランティアもよし、色々な経験をしてください。必ず将来、役に立つはずです。

もしみなさんが、専門知識と幅広い経験を兼ね備えれば、どんな場所でも生きていけます。大学生活で大きく成長して、日本を、世界を変える人材になってくれることを期待しています。



経済学部の先生方に質問！

足立 泰美先生	28	中川 真太郎先生	52
石川 路子先生	30	林 健太先生	54
石田 功先生	32	林 亮輔先生	56
永廣 顕先生	34	平井 健介先生	58
岡田 元浩先生	36	宮尾 龍蔵先生	60
萩巢 嘉高先生	38	宮川 敏治先生	62
奥田 敬先生	40	宮本 舞先生	64
奥山 鈴香先生	42	村澤 康友先生	66
鎰谷 宏一先生	44	森 剛志先生	68
高 龍秀先生	46	森本 裕先生	70
小山 直樹先生	48		
寺尾 建先生	50		



足立 泰美（あだち よしみ）

大阪大学大学院国際公共政策研究科

修士「国際公共政策」取得

大阪大学大学院医学系研究科

博士「医学」取得

大阪大学大学院国際公共政策研究科

博士「国際公共政策」取得

1. 先生の専門分野は何ですか？

財政学です。なかでも、地方財政および社会保障財政が専門です。

2. 先生の現在の研究テーマは何ですか？

「人口減少と働き方の変化の中で、財源と給付をどう持続させるか」をテーマに、行政・家計・企業の個票データを用いて実証的に検証しています。財源面では税・社会保障負担や公債のあり方を、給付面では雇用支援や年金に加え、医療・介護などの社会保障を中心に分析しています。さらに、生活を支えるインフラとして上下水道などの公共サービスにも視野を広げ、制度や財政の設計が地域や暮らしに与える影響を横断的に明らかにしたいと考えています。

3. 上記のテーマを研究していて感じる社会的意義や面白さなどについて、どのようなことでも構いませんので教えてください！

公共サービスは、財政と制度の選択で形が決まります。データで「違いが生まれる理由」と「よりよい設計」を明らかにし、政策改善につなげられる点が面白さであり意義です。

4. 先生が学生時代に最も熱中した「学び」や「活動」は何ですか？

現場に足を運ぶことです。学びを「知識」で終わらせず、社会の中で何が

起きているのかを自分の目で確かめたくて、色々な場所に出かけました。現場で見たこと、聞いたことがつながった瞬間に、「学ぶ意味」が一気に立ち上がってくる感覚がありました。あの実感が、今の学び方の原点です。

5. 経済学を学んだことが、ご自身のものの見方や考え方にどのような影響を与えたと思いますか？

直感ではなく、因果と制度で考えるようになりました。社会を見る解像度が上がったと思います。

6. 先生の授業やゼミで、学生に身につけてほしい力は何ですか？

出会いと挑戦ですね。自分にも仲間にも限界を決めず、一緒に果敢に取り組んでほしい。その先に何を成し遂げられるのかを見極めながら、努力を厭わないでほしいです。

7. 研究やお仕事から気分転換したくなったときは何をされていますか？

研究が気分転換ですね。考えることに没頭すると、余計なことが消えて、心が整います。問いに向き合う時間が、私にとってのリセットボタンです。

8. 大学時代に将来の進路を決めるきっかけはありましたか？

決め手は一つではなく、「もっと知りたい」「もっと学びたい」が積み重なった結果です。人との出会いと繰り返される経験の延長線上に、今の道がありました。

9. 新入生に一言お願いします。

トコトン遊んで、思いっきり勉強してください。そこから失敗と成功を繰り返しながら、自分の限界を感じつつ、自身の得手と不得手を、身をもって知ることができます。この「知る」ことの積み重ね、それが自分についての知識になります。ゆくゆくは将来への道が見えてくるきっかけになります。



石川 路子（いしかわ のりこ）

神戸大学工学部卒業

神戸大学大学院自然科学研究科博士前期課程修了

大阪大学大学院国際公共政策研究科博士後期課程修了

1. 先生の専門分野は何ですか？

私の専門分野は「地域経済学」です。都市や地域の抱える課題がすべて研究対象になるので非常に幅広い分野です。

2. 先生の現在の研究テーマは何ですか？

現在の私のテーマは生活の質（Quality of Life）の地域格差の分析です。人々の生活の質が地域によってどのように異なるのか、さらにその差がどのような要因によって生まれているのかを明らかにすることで、よりよい地域をつくるための方策を検討しています。

3. 上記のテーマを研究していて感じる社会的意義や面白さなどについて、どのようなことでも構いませんので教えてください！

私のテーマは、経済学の観点からだけではなく、教育や福祉といった地域を形成する分野を踏まえた研究ですので、さまざまな視点が必要ですが、（好奇心旺盛な私自身は）ワクワクします。また国や地方自治体だけに任せるのではなく、地域をよくするために私たちができることは何か、を考えるという点で非常に意義があると感じています。

4. 先生が学生時代に最も熱中した「学び」や「活動」は何ですか？

学部での「建築設計」の課題です。私は工学部に所属し、建築を学んでいましたが、授業の一つに、建物の図面（+模型）を仕上げる授業がありま

した。建物の条件等が提示されてから3週間程度で完成させないといけないので、常に課題に追われ本当に大変だったのですが、クラスの仲間と一緒に頑張ったことは今では良い思い出です。

5. 経済学を学んだことが、ご自身のものの見方や考え方にどのような影響を与えたと思いますか？

物事を俯瞰的・長期的に判断することの重要性でしょうか。建築などの「ものづくり」の現場では、長期的な視点から考えますが、その建築がまち全体にどういった影響を及ぼすのか、といった観点はあまり重要視されていない気がします。さまざまな要素が複雑に絡み合っていることを改めて教えてくれたのが経済学だと思っています。

6. 先生の授業やゼミで、学生に身につけてほしい力は何ですか？

「自律性」です。社会に出ると、指示を待つのではなく自ら率先して動くことのできる人材が求められます。ゼミでは、自分自身で自分の道を切り拓くことのできる強さを身につけてほしいと思っています。

7. 研究やお仕事から気分転換したくなったときは何をされていますか？
2匹の猫とまったり過ごすか、1匹のやんちゃな犬と思い切り遊びます(笑)

8. 大学時代に将来の進路を決めるきっかけはありましたか？

私は小さい頃から建築士になりたくて大学進学を決めたのですが、建築設計の授業を通じて(他のクラスメイトと比べて)自分には才能がないなあと感じたので(笑)まちづくりに関わる職にしようと考えました。

9. 新入生に一言お願いします。

これから始まる4年間は皆さんの将来にとってもかけがえのないものになると思います。あっという間に終わってしまうこの時間がぜひ有意義なものになるよう、さまざまなことにチャレンジしてくださいね。



石田 功 (いしだ いさお)

甲南大学経営学部卒業
ワシントン大学 (シアトル) M.B.A.
カリフォルニア大学サンディエゴ校
Ph.D. (経済学)

1. 先生の専門分野は何ですか？

計量ファイナンスと金融市場の実証分析です。

2. 先生の現在の研究テーマは何ですか？

株価や為替レートが「明日上がるか下がるか」を予測することは困難ですが、市場価格の変動の激しさ（ボラティリティ）であれば、過去のデータから統計的に一定の精度で予測できます。このボラティリティの計測・予測精度を向上させることが、主な研究テーマです。

3. 上記のテーマを研究していて感じる社会的意義や面白さなどについて、どのようなことでも構いませんので教えてください！

資産運用のリスク管理や、限られた資本をどのプロジェクトに配分するかを決める際の鍵となるため、社会的意義は大きいと思います。また面白さとしては、技術オタク的な気質のある私にとって、モデルの精度が上がる瞬間には理屈抜きにゾクゾクするものがあります。

4. 先生が学生時代に最も熱中した「学び」や「活動」は何ですか？

「活動」はバイトばかりしていました。正直、それに時間を使いすぎたと、社会に出てから後悔しました。「学び」に関しては、専攻していた経営学の単位は最低限しか取りませんでした。個人的な興味から英語・数学・経

経済学には熱中しました。結果的にこれらが社会に出てから大きな武器になり、証券会社でクオント（計量分析に基づく資産運用）の職に就けました。ただ、これは単なる結果論です。「専攻を無視して好きなことだけやればいい」というアドバイスではありません。皆さんには、経済学部のカリキュラムを正面からしっかり学んでほしいと強く願います。

5. 経済学を学んだことが、ご自身のものの見方や考え方にどのような影響を与えたと思いますか？

複雑な社会現象からエッセンスを抽出し、曖昧な情緒（いわゆるポエム）を排して、徹底的に論理的に考える癖ができました。この思考法は、経済現象に限らず、私のあらゆる物事の見方に影響を与えています。

6. 先生の授業やゼミで、学生に身につけてほしい力は何ですか？

詳しくはエッセイに書きましたが、一言で言えば「AI の答えを鵜呑みにせず、自らの頭で検証し、判断する力」です。

7. 研究やお仕事から気分転換したくなったときは何をされていますか？

iCommons のコンビニにコーヒーと甘いものを買に行きます。プライベートな時間は、飼い犬と遊んだり、映画を観たり。

8. 大学時代に将来の進路を決めるきっかけはありましたか？

今振り返れば、大学3年生の頃には「経済学を使う仕事（研究者やエコノミスト）」に就きたいという希望は明らかだったと思います。しかし当時は、自分がその職に就ける可能性に気づけず、結果として遠回りをしました。

9. 新入生に一言お願いします。

4年間、しっかり勉強して下さい。



永廣 顕 (えひろ あきら)

東京大学大学院経済学研究科博士課程

1. 先生の専門分野は何ですか？

財政金融論、財政金融史が専門分野です。特に、財政と金融の境界領域である公債管理や財政投融资を中心に歴史と現状について研究しています。また、社会保障（年金・医療保険など）についても研究しています。

2. 先生の現在の研究テーマは何ですか？

現代日本の財政・金融政策の政策形成過程の歴史分析を研究テーマにしています。大蔵省（現財務省）や日本銀行の政策意図について考察しながら、現代日本の財政・金融政策の特質は 1910 年代後半から戦時期を経て戦後の 1960 年代にかけて形成されたのではないかという問題意識を持ち、研究を続けています。現在、戦時期と戦後直後の時期を分析中です。

3. 上記のテーマを研究していて感じる社会的意義や面白さなどについて、どのようなことでも構いませんので教えてください！

財政学・金融論の分野は、経済学だけでなく、政治学、行政学、経営学、会計学、社会学との隣接分野であり、世の中全体を幅広く理解できるところが面白いです。また、歴史分析は古くさく無意味なように感じられるところもありますが、その経験を現代に活用できる場所も少なからずあるのが意義深いと思います。

4. 先生が学生時代に最も熱中した「学び」や「活動」は何ですか？

「熱中した」とまではいきませんが、大学時代の生活の中心はオリエンテeringクラブでの「活動」でした。週末になると各地の野山を駆け巡っていました。また、クラブで大会を開催し、有志で駅伝やマラソン大会に出場していました。「学び」の方に「熱中」しなかったことが、今となって少しばかり後悔しています。

5. 経済学を学んだことが、ご自身のものの見方や考え方にどのような影響を与えたと思いますか？

世の中全体の動き(ヒトの動き、モノの動き、カネの動き)を客観的に見たり考えたりすることができるようになり、人間としての幅も若干広がったのではないかな？と感じています。

6. 先生の授業やゼミで、学生に身につけてほしい力は何ですか？

「力」ではありませんが、わからないことがあれば、すぐに人に尋ねる、すぐに自分で調べる「習慣」を身につけてほしいと思います。「わからないことを恥じることはない。わかればそれでいいのだから。」ということです。

7. 研究やお仕事から気分転換したくなったときは何をされていますか？
まずはコーヒーとお菓子(クッキーやおせんべいなど)で一服します。あとは、車や電車で買い物に出かけたり、博物館や美術館を訪れたり、音楽(歌謡曲中心)を聴いたり、、といったところでしょうか。

8. 大学時代に将来の進路を決めるきっかけはありましたか？

大学院に進学するか就職するかで悩んでいた時、恩師であるゼミの先生に「真面目に勉強を続けていれば大学院でもやっていけるよ」とのお言葉を頂戴し、大学院に進学することを決めました。

9. 新入生に一言お願いします。

「総合大学」である「甲南大学」を4年間継続して徹底的に使いこなしてください！興味や関心を見つけて4年間それに精一杯打ち込みましょう！



岡田 元浩（おかだ もとひろ）

同志社大学院経済学研究科博士後期課程
中退

1. 先生の専門分野は何ですか？

経済学の歴史。

2. 先生の現在の研究テーマは何ですか？

19世紀後期から20世紀前期に至る労働学説の批判的研究。

3. 上記のテーマを研究していて感じる社会的意義や面白さなどについて、
どのようなことでも構いませんので教えてください！

通説とは一線を画す過去の大経済学者達の懐の広さ。

4. 先生が学生時代に最も熱中した「学び」や「活動」は何ですか？

読書三昧と多言語学習。その時は実用性など度外視していましたが、
これが半世紀近くを経た現在の私の研究を支えています。反面、社会
活動、海外旅行、恋愛など、もっとアクティブに行動しておけばよか
ったと後悔しています。

5. 経済学を学んだことが、ご自身のものの見方や考え方にどのような影響を与えたと思いますか？

絶望の渦の中に希望の曙光を見出すことを学びました。

6. 先生の授業やゼミで、学生に身につけてほしい力は何ですか？

大学卒業後、十年、二十年以上を経て、ゼミでの学びの意義が真に理解できることを。

7. 研究やお仕事から気分転換したくなったときは何をされていますか？

日帰り小旅行、音楽鑑賞、好物を食すること、昼寝 etc.

8. 大学時代に将来の進路を決めるきっかけはありましたか？

文学者志望の挫折。これが今日に至る私の原点です。

9. 新入生に一言お願いします。

「明日死ぬがごとく生き、永遠に生きるがごとく学べ」(Mohandās Karamchand Gāndhī)



萩巢 嘉高（おぎす よしたか）

南山大学経済学部 卒業

神戸大学大学院経済学研究科博士課程前期課程 修了

神戸大学大学院経済学研究科博士課程後期課程 修了

1. 先生の専門分野は何ですか？

マクロ経済学、労働経済学およびネットワーク科学を専門にしています。

2. 先生の現在の研究テーマは何ですか？

人々の交友関係や、企業と銀行の取引関係などの、“つながり”が経済にもたらす影響を研究しています。

3. 上記のテーマを研究していて感じる社会的意義や面白さなどについて、どのようなことでも構いませんので教えてください！

「仲の良い人には、よくしてあげたい」と思うことはありませんか？経済のあちこちで観測される事象にも、このような仲良しの効果が発生していると考えられます。しかし目に見えにくい“つながり”を取り扱うことは簡単ではありません。“つながり”をしっかりと考慮して分析を行うと、それらをもたらすメリットがはっきりしますし、デメリットもわかります。このような視点をもたらすことは、一定の社会的な意義があると思います。

4. 先生が学生時代に最も熱中した「学び」や「活動」は何ですか？

学部生の間はサッカーの審判をしていました。

5. 経済学を学んだことが、ご自身のものの見方や考え方にどのような影響を与えたと思いますか？

ものごとを考える際に非常に論理的に考えることができるようになったと思います。

6. 先生の授業やゼミで、学生に身につけてほしい力は何ですか？

自分が「何が好きか」あるいは「何に関心を持っているのか」を明確にする能力は、培ってもらえたらいいなと思っています。自分の思考を整理することって、案外難しいものです。あとは論理的な思考力と、ちょっとしたユーモアと度胸でしょうか。

7. 研究やお仕事から気分転換したくなったときは何をされていますか？

ゲームをしていることが多いです。最近ではポケモンです。パワプロ、逆転裁判も好きでした。

8. 大学時代に将来の進路を決めるきっかけはありましたか？

もともと大学受験に失敗して、大学院進学は視野に入れていました。ただ、研究職が良いなと思ったのは、先生と研究の話や雑談をしていったことが決定的だったと思います。お世話になっていた先生のオフィスに4~5時間ほど居座って雑談しているのも珍しくなかったです。今振り返ればかなり迷惑な学生でしたが。

9. 新入生に一言お願いします。

大学生活では、何かチャレンジしたいことがあればチャレンジし、体力的・精神的に無理をしないようにし、適切に周りに頼ることを心がけましょう。



奥田 敬（おくだ たかし）

1958年生。

慶應義塾大学大学院経済学部研究科博士
課程単位取得退学

一橋大学社会科学古典資料センター助手

1. 先生の専門分野は何ですか？

経済学史／社会思想史／南イタリア近代史

2. 先生の現在の研究テーマは何ですか？

40年以上も同じですが……「18世紀ナポリ啓蒙」

3. 上記のテーマを研究していて感じる社会的意義や面白さなどについて、どのようなことでも構いませんので教えてください！

アダム・スミスから始まる（とされている）のとは違う〈経済学〉の可能性（初心）を探究しています。

4. 先生が学生時代に最も熱中した「学び」や「活動」は何ですか？

十余りの外国語の習得に励みました。結局、多少なりとも身についたと言えそうなのは、ラテン語とイタリア語だけでしたが。

5. 経済学を学んだことが、ご自身のものの見方や考え方にどのような影響を与えたと思いますか？

「億」や「兆」といった桁の大きな数字を「一人あたり」や「一時間あたり」に換算するなどして、身近に捉える習慣がついたことでしょうか？

6. 先生の授業やゼミで、学生に身につけてほしい力は何ですか？

「考えるヒント」として古典を活用できる力。

7. 研究やお仕事から気分転換したくなったときは何をされていますか？

読まねばならぬ本ではなく、読んでおきたい本を手にはしています。

8. 大学時代に将来の進路を決めるきっかけはありましたか？

《一八世紀の最後の四半世紀にいたるまでは、経済学はイタリア人の科学であった。》というシュンペーター『経済分析の歴史』の一節がずっと気に懸かっていたのですが、卒論の対象を絞り込もうとしていた1980年（3回生）の7月に偶然、洋書店の書棚で *Venturi, Franco, Italy and the Enlightenment. Studies in a Cosmopolitan Century*, New York U.P., 1972 に出会いました。

9. 新入生に一言お願いします。

マルクス『資本論』序文の有名な結句：

Segui il tuo corso, e lascia dir le genti!

（君の道を辿れ。人々には言わせておけ。）

これは実はかなり捻りがきいています。

ダンテ『神曲』煉獄篇 5:13 の原文では、

前半は *Vien dietro a me*（私について来なさい）です。



奥山 鈴香

(おくやま すずか)

大阪大学大学院経済学研究科後期課程修了

1. 先生の専門分野は何ですか？
産業組織論です。
2. 先生の現在の研究テーマは何ですか？
消費者データを活用した企業の行動について研究しています。
3. 上記のテーマを研究していて感じる社会的意義や面白さなどについて、
どのようなことでも構いませんので教えてください！
自分の研究の結果として、アマゾンやドコモといった企業の戦略の効果を、(たぶん) 私が初めて知ることができること。
4. 先生が学生時代に最も熱中した「学び」や「活動」は何ですか？
登山です。お金をたくさん使ってしまったので親に怒られましたが、後悔はしていません。今は余暇の時間がそんなにたくさんありません。
5. 経済学を学んだことが、ご自身のものの見方や考え方にどのような影響を与えたと思いますか？
他の人よりも戦略的状況における意思決定をうまく行えている(はず)。

6. 先生の授業やゼミで、学生に身につけてほしい力は何ですか？
産業組織Ⅰと産業組織Ⅱを担当しています。企業に関するニュースや日常生活で直面する企業の行動を、ミクロ経済学を通して理解できる力です。
7. 研究やお仕事から気分転換したくなったときは何をされていますか？
飲食、昼寝、散歩。気分転換のために自転車通勤をしたいと思います。
8. 大学時代に将来の進路を決めるきっかけはありましたか？
ゼミで卒業研究に取り組んだこと。こういうことを仕事にしたいと思いました。
9. 新入生に一言お願いします。
大学生の4年間の時間を大切にしてください。



鎔谷 宏一(かぎたに こういち)

神戸大学大学院経済学研究科博士課程後
期課程国際経済専攻修了 博士(経済学)

1. 先生の専門分野は何ですか？

国際経済学（国際貿易論）です。

2. 先生の現在の研究テーマは何ですか？

グローバリゼーションに係る諸問題を政治経済学的な視点から理論モデルとデータを用いて分析しています。

3. 上記のテーマを研究していて感じる社会的意義や面白さなどについて、どのようなことでも構いませんので教えてください！

グローバリゼーションや急激な技術変化の下で、現在、世界各国の政治・経済・社会が大きく動揺しています。人々がグローバリゼーションに対してどのように感じ、その結果、どのような行動をとるのかということ进行分析することを通して、グローバリゼーションに係る諸問題の背景を明らかにし、より良い社会を築くためにはどのような政策や施策が必要なのかを明らかにしたいと考えています。

4. 先生が学生時代に最も熱中した「学び」や「活動」は何ですか？

ゼミとアウトドア・アクティビティには力が入っていたと思います。

5. 経済学を学んだことが、ご自身のものの見方や考え方にどのような影響を与えたと思いますか？

イギリスの経済学者アルフレッド・マーシャルの言った言葉、“*Cool Head but Warm Heart*”、こういったものを備えた人間になりたいと思うようになりました(現在でもそう思っています)。

6. 先生の授業やゼミで、学生に身につけてほしい力は何ですか？

経済学というツールを用いて、自分の興味がある現実社会の様々な出来事について自由に分析ができる力を身に付けてほしいと考えています。

7. 研究やお仕事から気分転換したくなったときは何をされていますか？

散歩をしたり、料理をしたりします。

8. 大学時代に将来の進路を決めるきっかけはありましたか？

特にありませんが、大学時代に、いろいろな本を読んだり、いろいろな場所に行ったりしたことが現在につながっているような気がします。

9. 新入生に一言お願いします。

自由に使える時間がたくさんあることが、大学生の特権の一つではないか
と思います。自由な時間を有意義に使って、いろいろなことにチャレンジ
してみてください。



高龍秀（こう・よんす）

1984年に大阪府立大学を卒業し、1991年
大阪市立大学大学院を修了。

1. 先生の専門分野は何ですか？

国際経済学とアジア経済です。

2. 先生の現在の研究テーマは何ですか？

サムスン電子など韓国の企業を研究しています。

3. 上記のテーマを研究していて感じる社会的意義や面白さなどについて、どのようなことでも構いませんので教えてください！

急速な環境変化にスピーディーに対応できる企業の特長に気づき、興味がつきません。

4. 先生が学生時代に最も熱中した「学び」や「活動」は何ですか？

大学時代に、韓国語や韓国の歴史を学ぶサークルに入り、多くの仲間と出会い、その後も長く親交が続く大切な先輩・友人ができました。

5. 経済学を学んだことが、ご自身のものの見方や考え方にどのような影響を与えたと思いますか？

複雑な社会の動きについて、論理的に、筋道をたてて説明することができる力が身についたと感じます。

6. 先生の授業やゼミで、学生に身につけてほしい力は何ですか？

仲間とよく議論して、チームワークを築く力を身につけてほしい。
なぜこうなったのかなど原因を深く掘り下げて考える力を身につけてほしい。

7. 研究やお仕事から気分転換したくなったときは何をされていますか？

プロ野球観戦をしています。

8. 大学時代に将来の進路を決めるきっかけはありましたか？

発展途上国の経済について衝撃的な本と出会い、その著者の先生がいる大学院に入りました

9. 新入生に一言お願いします。

大学時代に大切な友達を作りましょう。

大学時代に打ち込める何かを見つけましょう。

世代を超えて、いろんな人と話をするのはとても大切です。

授業で先生の話をよく聞くこともその意味で重要です。

授業にちゃんと出て先生の話をよく聞きましょう。



小山 直樹（こやま なおき）

名古屋市立大学大学院経済学研究科博士
課程後期課程修了

1. 先生の専門分野は何ですか？

統計学、経済統計学、および計量経済学です。

2. 先生の現在の研究テーマは何ですか？

授業改善アンケートデータの分析を行っています。

3. 上記のテーマを研究していて感じる社会的意義や面白さなどについて、どのようなことでも構いませんので教えてください！

甲南大学では、講義・授業の改善に役立てる目的で、学期ごとに授業改善アンケートを実施しています。このアンケートは、各講義・授業を担当している個々の教員がより良い授業を行うための情報を得ることで、授業改善（ファカルティ・デベロップメント：FD）に繋がることを期待して導入されました。しかし、個別の講義・授業に対する学生の反応を見るだけでなく、多数の講義・授業のアンケートデータを分析することで、“大学における講義・授業とはどのようなものであるべきか？”を考える情報が得られるのではないかと考えました。まだまだ途上ですが、少しずつですが「何か」が見えてきたと思います。

4. 先生が学生時代に最も熱中した「学び」や「活動」は何ですか？

ゼミでの共同研究に力を入れていました。

5. 経済学を学んだことが、ご自身のものの見方や考え方にどのような影響を与えたと思いますか？

経済学（とくに計量経済学）を学ぶことで、以下のような世界観を持つようになりました。

- ・世の中、社会とはどのような構造をしているのか？（経済学を学ぶ動機）
- ・どのような法則性があるのか？（経済学を学ぶことで得た知識）
- ・将来を予測する方法はあるのか？（計量経済学を学ぶことで獲得したノウハウ）

6. 先生の授業やゼミで、学生に身につけてほしい力は何ですか？

どんなシチュエーションでも、自分でやりたいこと・やるべきことを見つけ、仲間と協力して、結果を出す力です。おおよそ社会人基礎能力と呼ばれるスキルやノウハウに分類されますが、こうした力は「理論で学ぶ」より、ゼミなどで繰り返しチャレンジして成功・失敗を重ねることでこそ自得できるものです。

7. 研究やお仕事から気分転換したくなったときは何をされていますか？

散歩や、本屋巡りなどです。

8. 大学時代に将来の進路を決めるきっかけはありましたか？

3回生の夏休みに、大学院へ進学するための勉強を始めたのが今の進路へ進む端緒でした。ただし、「研究者になりたい」という夢は、小学生の頃から持っていました。

9. 新入生に一言お願いします。

マイペースで行こう！



寺尾 建（てらお・たける）

1991年 京都大学経済学部経済学科 卒業

1996年 京都大学大学院経済学研究科 修了

1. 先生の専門分野は何ですか？

——「マクロ経済学」です。「経済全体」を対象とするマクロ経済学は、ミクロ経済学と並んで、経済学全体の「土台」となっている分野です。

2. 先生の現在の研究テーマは何ですか？

——上でも書いたように、専門分野はマクロ経済学なのですが、経済学を学び始めた頃から、経済学の成り立ちに強い関心があり、この10年間は、「経済学は、なぜ数学的になったのか？」「経済学が数学的であることには、どのような意味や意義があるのか？」という問題について考え続けています。

3. 上記のテーマを研究していて感じる社会的意義や面白さなどについて、どのようなことでも構いませんので教えてください！

——ハンガリー出身の物理学者であるユージン・ウィグナー (Eugene Paul Wigner, 1902-1995) は、「自然科学における数学の理不尽な有効性 (The Unreasonable Effectiveness of Mathematics in the Natural Sciences)」という1960年の論文において、物理現象を記述するのに数学が使えることは「摩訶不思議」「奇跡」と述べていました。しかしながら、同様のことが経済現象と数学の関係についても当てはまると言えるのか否かについては、経済学が「数学化 (mathematization)」されて半世紀以上が経つ現在まで、明らかにはされていません。

4. 先生が学生時代に最も熱中した「学び」や「活動」は何ですか？
——読書と音楽です。大学の4年間で、計500冊以上の本を読み、そして、計800枚以上のアルバムを聴きました。
5. 経済学を学んだことが、ご自身のものの見方や考え方にどのような影響を与えたと思いますか？
——物事に取り組む際に「意図したことや計画したことと真逆の悪い結果がもたらされる(裏目に出る)」という事象が生じる危険性を常に考えるようになったことは、経済学の影響であると考えています。
6. 先生の授業やゼミで、学生に身につけてほしい力は何ですか？
——「この世界には、自分という人間は、自分ただ一人しか存在しない」という厳然たる事実の意味と意義を正しく理解する力です。
7. 研究やお仕事から気分転換したくなったときは何をされていますか？
——作業的な仕事をする際にBGMとして流すDJ MIXをつくります。
8. 大学時代に将来の進路を決めるきっかけはありましたか？
——4年生の5月、所属するゼミにおいて行った卒業研究の中間報告を行った日の夜に、ゼミ担当の先生に夕食に誘っていただき、その席において、大学院に進学して研究者となることを強く勧められました。
9. 新入生に一言お願いします。
——新入生のみなさんに、以下の言葉を贈ります。
「大学とは、何か？」「何でもない(Nothing)」
「大学は、何を目指しているのか？」「すべてを(Everything)」
「大学には、何ができるのか？」「何かしらのことを(Something)」
大学は、何でもないがゆえにすべてを目指すような存在であり、したがって、みなさんの人生(とみなさんが生きる社会)に対して、何かしらのことはできる存在です。



中川真太郎

(なかがわ しんたろう)

京都大学大学院 経済学研究科
博士後期課程 修了

1. 先生の専門分野は何ですか？

公共経済学です。

2. 先生の現在の研究テーマは何ですか？

公共財の研究です。公共財というのは、対価を払った人も払わない人も誰でも利用でき（非排他性）、また、ある人が利用しても、他の人もそれを同じように利用できる（非競合性）という2つの性質を持つ財を言います。「そんなものが現実にあるのだろうか」と思うかもしれませんが。しかし、たとえば、地球の自然環境がもたらす恩恵は、世界中誰もが利用できますし、また、ある人が利用したからと言って他の人が利用できるわけではありません。そのため、地球環境は公共財の1つです。

3. 上記のテーマを研究していて感じる社会的意義や面白さなどについて、どのようなことでも構いませんので教えてください！

地球環境以外にも、現代社会の様々な問題が公共財の性格を持っています。私は、この公共財の理論を用いて、地域の防災や国際社会の安全保障など、現実の様々な問題を分析する研究に取り組んでいます。

4. 先生が学生時代に最も熱中した「学び」や「活動」は何ですか？

学生時代はゼミでディベートをしたり、ゼミで政策研究の論文を執筆したりしました。また、大学院の入学試験のための勉強をして、卒業論文

を書きました。そういうことは非常に大変でしたが、やりがいも大きかったです。

5. 経済学を学んだことが、ご自身のものの見方や考え方にどのような影響を与えたと思いますか？

そういう単純な話ではないですね。話せば長くなるので、ここでは回答は省略させていただきます。

6. 先生の授業やゼミで、学生に身につけてほしい力は何ですか？

中川ゼミでは、グループに分かれて論文を書いてもらっています。論文を書くには、研究テーマを決めて、そのテーマについてのデータや制度を調べ、さらに、そのテーマについて書かれた先行研究を読み、自分たちでデータ分析をして、それを論理的な文章にまとめる必要があります。そのためには、読解力、論理的思考力、分析力、文章力など様々な力が必要となりますし、ゼミを通じてそれらの力を鍛えて欲しいと考えています。

7. 研究やお仕事から気分転換したくなったときは何をされていますか？

大学教員は同じ仕事をずっとしているわけではなくて、研究、教育、学生指導の他に、大学の運営に関する業務もあって、自然と気持ちが切り替わるので、特段、気分転換はしておりません。ただ、休日は休むようにしています。

8. 大学時代に将来の進路を決めるきっかけはありましたか？

これがきっかけ、という出来事は、特にありませんでした。

9. 新入生に一言お願いします。

人間は不完全な存在です。私たちは不完全だからこそ学ぶのです。



林 健太 (はやし けんた)

本山第三小 → 本山中 → 報徳学園高 →
神戸商科大学 商経学部 管理科学科 →
大阪大学 大学院 国際公共政策研究科

1. 先生の専門分野は何ですか？

情報通信経済学です。インターネット・ビジネスにまつわることを研究対象としています。

2. 先生の現在の研究テーマは何ですか？

昔はインターネットを如何に（早く）普及させるかといった、ハードウェアの整備に関心がありましたが、現在は、インターネット上を流れる様々なコンテンツを、人々がどのように消費しているのかに興味があります。また、AI 普及にまつわる諸課題についても研究したいと考えています。

3. 上記のテーマを研究していて感じる社会的意義や面白さなどについて、どのようなことでも構いませんので教えてください！

AI の普及によって、一番変わるのは「人生における時間の使い方」だと感じています。AI がもたらす自動化により、様々な局面で「余る時間」が増えるはずで、それをどう配分して使うかは、これからの時代の経済学が取り組むべきテーマではないかと思います。

4. 先生が学生時代に最も熱中した「学び」や「活動」は何ですか？

大学 2 年生の時に初めてインターネットに出会ったのをきっかけに、友人と「パソコン通信（SNS の先駆けのようなもの）」に、はまって

いましたね。部活動は「マンドリン・ギター部」に所属していて、3年生の時には指揮者をしていました。

5. 経済学を学んだことが、ご自身のものの見方や考え方にどのような影響を与えたと思いますか？

様々な物事を客観視できるようになりました。現実でもインターネット上でも、「そういう考え方をする人もいるよね」と思えるようになると、人生、随分と楽になりますよ。

6. 先生の授業やゼミで、学生に身につけてほしい力は何ですか？

新しい技術に関心を持ち、それが普及した未来を生きる想像力を養ってほしいです。技術革新が起これば、世の中の有り様が一変します。その時、どう生きていくのか、「常に備えられる」ように、意識してゼミ活動に取り組んでいただけると嬉しいです。

7. 研究やお仕事から気分転換したくなったときは何をされていますか？

ゲームをする（10年以上続いているハースストーン）、漫画やアニメを見る（サブスクリプションで色々と）、サッカー観戦する（20年以上応援しているヴィッセル神戸）などでしょうか。空に浮かぶ雲を、ボーッと眺めながら、色々と想像するのも好きです。

8. 大学時代に将来の進路を決めるきっかけはありましたか？

阪神・淡路大震災ですね。この世を去るときに後悔しない生き方をしよう、と決意するきっかけになりました。

9. 新入生に一言お願いします。

エッセイにも書きましたが、人間らしく、効率の悪い（一見、無駄と思える）ことを楽しんでください。

あまりタイムパフォーマンスを重視し過ぎず、色々なことを経験しながら、大学生活を大いにエンジョイしていただければ幸いです。



林 亮輔（はやし りょうすけ）

関西学院大学経済学部卒業

関西学院大学大学院経済学研究科

博士課程前期課程修了

関西学院大学大学院経済学研究科

博士課程後期課程修了

1. 先生の専門分野は何ですか？

専門分野は「公共政策」です。公共政策とは「民間部門では解決することのできない公共的問題を解決するために公共部門が実施する政策」のことですが、公共部門の中でも地方自治体や国に焦点を当て、地方自治体や国が実施する公共政策について研究しています。

2. 先生の現在の研究テーマは何ですか？

少子高齢化、東京一極集中などの社会経済状況の変化によって、多くの地域が衰退し、持続可能性すら危ぶまれている地域も存在します。持続可能な地域経済システムの構築を目指して、地域経済力の強化や、地域政策の担い手である地方自治体の行政運営の効率化について研究しています。

3. 上記のテーマを研究していて感じる社会的意義や面白さなどについて、どのようなことでも構いませんので教えてください！

地域が抱える課題を研究する中で、地方自治体や国の政策を担う方々と直接関わり、議論や提案を行う機会があります。その際、自分の研究成果が実際の政策や施策に反映され、地域課題の解決に貢献できることに大きな意義・面白さを感じます。

4. 先生が学生時代に最も熱中した「学び」や「活動」は何ですか？

学生時代に最も熱中したのは「ゼミ活動」です。ゼミで学んだ知識は今でも役立っていますし、そこで築いた友人や先輩・後輩とのつながりは今も

続いています。特に、仲間と夜遅くまで大学図書館で研究に打ち込んだ時間は、忘れられない思い出です。

5. 経済学を学んだことが、ご自身のものの見方や考え方にどのような影響を与えたと思いますか？

経済学は、人々の選択や意思決定を扱う学問です。選択には必ずトレードオフがあり、何かを得るためには何かを諦めなければなりません。経済学を学んだことで、限られた資源の中で最適な選択を考える視点が身につく、買い物などの日常から仕事の判断まで大きな影響を与えています。

6. 先生の授業やゼミで、学生に身につけてほしい力は何ですか？

「考える力」を身に付けてほしいと考えています。社会で活躍する方々に話を伺うと、皆口を揃えて考える力を鍛えることの重要性を指摘されます。考える力はトレーニングをしなければ高まりません。したがって、自分自身の頭でまずは考える。そのことを大学生生活で癖づけてほしいと思います。

7. 研究やお仕事から気分転換したくなったときは何をされていますか？

猫と遊んだり、観葉植物に水をやったり、金魚の水替えをするなど、身近な癒しを楽しんでいます。また、博物館や美術館に足を運んで新しい刺激を得たり、アニメや YouTube を観ることもあります。

8. 大学時代に将来の進路を決めるきっかけはありましたか？

将来の進路を決めるきっかけは、ゼミで経済学の研究を深める中で、その面白さを実感したことです。特に、ゼミで経験したディベートは、経済学をより魅力的で奥深いものだと感じさせてくれました。

9. 新入生に一言お願いします。

大学では皆さん自身に時間の使い方が委ねられています。したがって、時間をどのように活用するかで今後の人生が大きく変化します。そのことを常に心に留め、有意義な学生生活を送ってください。



平井健介（ひらいけんすけ）

慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程修了（博士（経済学、慶應義塾大学））

1. 先生の専門分野は何ですか？

経済史（日本植民地経済史、近代アジア経済史）。

皆さんがこれまで接してきた「歴史」は、誰かが生み出した過去の物語を「読む」という作業でした。暗記が主体で退屈な作業だったかもしれませんが。それに対して、大学からの「歴史学」は、これまで語られてこなかった過去の物語を「生み出す」作業です。史料を探し出し、これまで謎とされていた現象を解明していく、ミステリー小説を書いているような（実際に書いたことはないのですが）非常に刺激的な作業です。

2. 先生の現在の研究テーマは何ですか？

日本統治時代の台湾の経済です。現在は主に、農業の近代化を促した研究開発の体制がどのように整備・運営されたのかを研究しています。

3. 上記のテーマを研究していて感じる社会的意義や面白さなどについて、どのようなことでも構いませんので教えてください！

日本の植民地統治は近代化をもたらしたと評価されがちですが、近代化を進める政策そのものが極めて妥協的な産物で、その成果も誇張されたものであったと言えるのではないかと考えています。台湾総督府の官僚と日本政府の官僚との間で行われる交渉過程の文書などを読んで研究を進めていますが、映画を見ているようでワクワクします。

4～8. 省略

毎年似たような質問なので、経済学会のウェブサイトにある『入門のしおり』のバックナンバーを見れば、どこかで回答しているはずです(多分)。

9. 新入生に一言お願いします。

これまでのあなたは、それが良いか悪いかは別として、教科書によって学習範囲を限定され、授業という形で内容を解説され、試験によって理解度を測ってもらうことができました。

しかし大学に入ると、こうした段階は次第に終わりを告げ、教科書もなく、授業も試験も用意されていない段階へと、徐々に足を踏み入れていきます。大学卒業後の人生では、いくつかの例外を除けば、ほぼこの段階に在ると言っても過言ではないでしょう。あなたが何らかの問題を解決しなければならなくなり、一体何をどこまで学べばよいのか分からず途方に暮れていても、誰も教科書を渡してはくれませんし、授業や試験をしてくれることもありません。そもそも教科書などないし、せいぜいアドバイスをもらえる程度です。以上のことは、たとえば、地球温暖化を解決するためにはこれを読めばよいという教科書が存在せず、そのような授業も試験もないことを想起すれば、容易に理解できるでしょう。事態は深刻なのです。

もしあなたが「愚か者」であれば、この深刻さにかえって狂喜乱舞したかもしれませんし、そうでなければ絶望したことでしょう(あるいは、何も感じなかったかもしれません)。ただし、絶望した人も心配はいりません。絶望から抜け出す道がないわけではないからです。一つは、問題に直面しても、それを問題と感ぜない耐性や、問題を避けて過ごせる柔軟性を持つ「賢い人」になること。もう一つは、教科書・授業・試験がなくても問題に立ち向かう能力を身につけようとする、面倒な道をあえて選ぶ「愚か者」になり下がることです。

どれを選ぶかはあなた次第ですが、私は当然、「愚か者」たちにこそ期待しています。



宮尾 龍蔵(みやお りゅうぞう)

神戸大学経済学部卒業

ハーバード大学大学院修了 Ph.D (経済学)

1. 先生の専門分野は何ですか？

マクロ経済政策、金融です。

2. 先生の現在の研究テーマは何ですか？

金融政策のマクロ経済効果に関する実証分析を行っています。

3. 上記のテーマを研究していて感じる社会的意義や面白さなどについて、どのようなことでも構いませんので教えてください！

金融政策の効果や是非をめぐっては、時に激しい論争を巻き起こしてきました。賛否が分かれる問題について、自分自身も納得できる頑健な実証結果や理論的な知見を提示できたとき、やりがいを感じます。

4. 先生が学生時代に最も熱中した「学び」や「活動」は何ですか？

クラブ活動 (ESS) に打ち込みました。

5. 経済学を学んだことが、ご自身のものの見方や考え方にどのような影響を与えたと思いますか？

経済学を学ぶ意義とは、全体を俯瞰して、問題を設定する目を養い、解決に向けた方策を自ら考える、そうした力を身につけることだと考えます。個別のミクロ的な問題だけではなく、全体をシステムとして俯瞰しマクロで考えることの大切さは、経済学を通じて学んできました。

6. 先生の授業やゼミで、学生に身につけてほしい力は何ですか？

分からないこと、疑問に感じたことは、ぜひ積極的に質問やコメントをして、「問う力」を身に付けてほしいですね。素朴な疑問から出発して「問い」を重ねることで、思考が深まっていきます。質問やコメントをすることは、自分だけではなく、周りの人にとっても大きな学びとなります。

7. 研究やお仕事から気分転換したくなったときは何をされていますか？

ウォーキング、映画鑑賞などです。

8 大学時代に将来の進路を決めるきっかけはありましたか？

大学のゼミの先生から、大学院への進学を勧められたことがきっかけです。

9. 新入生に一言お願いします。

皆さんの前には大きな可能性が広がっています。さまざまな出会いを大切に、ぜひ充実した大学生活を送ってください。



宮川 敏治 (みやかわ としじ)

静岡大学人文学部講師、神戸大学大学院経済学研究科助教授、大阪経済大学経済学部教授を経て、現在、甲南大学経済学部教授

1. 先生の専門分野は何ですか？

ゲーム理論です。その中でも協力で発生した利益の分け方や協力関係の結び方の戦略的な側面を考察する交渉ゲーム理論を研究しています。メカニズム・デザインや協力ゲーム理論の研究もしています。

2. 先生の現在の研究テーマは何ですか？

- (1) 不完備情報の非協力交渉ゲーム理論の拡張
- (2) 認知の違いが存在する状況での交渉ゲーム理論の開発
- (3) 学校選択マッチングのメカニズム・デザイン(TTC と DA の統合)
- (4) 不完備情報の協力ゲーム理論 (コア理論) の研究

3. 上記のテーマを研究していて感じる社会的意義や面白さなどについて、どのようなことでも構いませんので教えてください！

「情報の偏在」や「認知の違い」が、交渉に重要な影響を与えることは以前から知られていますが、その「数学モデル」の構築はまだです。上記(1)(2)は「新しいもの」を開発している感じがあって楽しいです。(3)は計算アルゴリズムの開発も絡んで面白いです。(4)は E.Maskin 教授が提唱した研究プログラムで、未知の部分が多く残されています。

4. 先生が学生時代に最も熱中した「学び」や「活動」は何ですか？

理論経済学者であるありますが、「哲学」と「数学」です。

5. 経済学を学んだことが、ご自身のものの見方や考え方にどのような影響を与えたと思いますか？

自分の考えや世界観を「公理」の集まりとして描写する数学モデルを作り、取り組む問題を「定理」として表現し、それを「証明」というスタイルは、良くも悪くも私の日々の考え方に大きな影響を与えています。ただ、国や年齢関係なく「難しい問題を最初に解いた人が偉い」「証明できないと意味がない」という考え方が染み付いてしまっていて、社会で生きていく上では大きな問題があると感じています（笑）。

6. 先生の授業やゼミで、学生に身につけてほしい力は何ですか？

「楽しむ力」「考える力」「聞く力」「議論する力」「データ分析能力」「プレゼン能力」です。中でも「楽しむ力」が一番だと思っています。

7. 研究やお仕事から気分転換したくなるときは何をされていますか？

「大学の業務」「教育」「家事」に日々追われているので、滞っている「研究」や「査読」、さらには、若手研究者から送られてきた論文にコメントをするのが「楽しみ」になってしまっています。面白みのない大人になってしまいました... 気分転換に音楽（洋楽 R.E.M., 邦楽 back number, クラシック G. Mahler）を聞きます。

8. 大学時代に将来の進路を決めるきっかけはありましたか？

大学3年生のときに当時、京都産業大学にいらっしゃった入谷純先生を小西砂千夫先生に紹介していただき、お話をしたことです。二階堂副包『現代経済学の数学的方法』とJ. ヒックス『価値と資本』を読むことを薦められ、それら読んで世界が変わりました。人と本で人生は変わります。

9. 新入生に一言お願いします。

大学時代に一生楽しめるものを見つけてください。



宮本 舞 (みやもと まい)

甲南大学経済学部 卒業

神戸大学大学院経済学研究科

博士課程前期課程 修了

博士課程後期課程 修了(博士(経済学))

1. 先生の専門分野は何ですか？

環境経済学

2. 先生の現在の研究テーマは何ですか？

環境関連技術の開発・普及に関する特許データを用いた実証分析

3. 上記のテーマを研究していて感じる社会的意義や面白さなどについて、どのようなことでも構いませんので教えてください！

技術開発や普及が経済活動などに与える影響や、経済政策が技術開発や普及に与える影響を分析することで、経済学などの文系分野と工学や化学などの理系分野の架け橋となる研究である点に魅力や面白さを感じています。

4. 先生が学生時代に最も熱中した「学び」や「活動」は何ですか？

環境経済学に関するゼミでの研究や活動に熱心に取り組みました。

5. 経済学を学んだことが、ご自身のものの見方や考え方にどのような影響を与えたと思いますか？

経済学を学ぶ前よりは何かを選択したり、決断するのが少し得意になったと思います。

6. 先生の授業やゼミで、学生に身につけてほしい力は何ですか？

「自主的に取り組むこと」と「他の人と協働すること」です。

どちらも社会に出てから必要な力だと思いますし、この2点を頑張らないと得られない楽しさがあると思っています。

7. 研究やお仕事から気分転換したくなったときは何をされていますか？

2歳の子供と遊びます。乗り物が大好きなので、電車や働く車について詳しくなりました。

8. 大学時代に将来の進路を決めるきっかけはありましたか？

大学院に進むことに対して不安がありましたが、友人と何かの映画を見にいった際に「とりあえずやってみよう」となぜか決意が固まり大学進学を決めました。

9. 新入生に一言お願いします。

社会にはあなたにぴったりのやりたい仕事を用意されていないように、大学でも学びたいものが完全形で用意されているわけではありません。自分の工夫次第でとても面白くも、退屈にもなる4年間だと思います。皆さんの学生生活が充実したものになることを願っています。経済学を学んだから4年間が面白かった！と卒業時に感じてもらえるように、私も微力ながらサポートできればと思います。皆さんと一緒に学べるのを楽しみにしています。



村澤 康友（むらさわやすとも）

京都大学経済学部卒、同経済学研究科修士課程修了、(株)三菱総合研究所勤務、ペンシルベニア大学経済学研究科博士課程修了、京都大学経済研究所講師、大阪府立大学経済学部助教授・教授を経て現職

1. 先生の専門分野は何ですか？

経済データサイエンス（経済統計、応用計量経済学）

2. 先生の現在の研究テーマは何ですか？

インフレ期待の計測、調査データにおける欠測値の取扱い

3. 上記のテーマを研究していて感じる社会的意義や面白さなどについて、どのようなことでも構いませんので教えてください！

同じ情報にアクセスできるはずの人々が、異なる期待を形成するために、異なる判断・行動をとるのが興味深いです。また欠測値を適切に処理せず誤ったデータ分析が世の中に溢れているので、それを正していく研究は社会的意義があると思っています。

4. 先生が学生時代に最も熱中した「学び」や「活動」は何ですか？

特にありませんが、強いて言えば、人生の先輩や友人から教えてもらった本・映画・音楽などを、片っ端から読んで観て聴いて、いろいろ語り合うことに熱中していたように思います。

5. 経済学を学んだことが、ご自身のものの見方や考え方にどのような影響を与えたと思いますか？

自分の自由を貫き、他人の自由を尊重することの大切さを学びました。

6. 先生の授業やゼミで、学生に身につけてほしい力は何ですか？

正確な情報に基づいて冷静な判断を下し、責任ある行動を取れる人物になって頂きたいと思います。

7. 研究やお仕事から気分転換したくなったときは何をされていますか？

酒を飲みながら音楽を聴くか動画を観る。

8. 大学時代に将来の進路を決めるきっかけはありましたか？

村上春樹「世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド」を読んで、主人公の「計算士」という職業が自分に向いているかもしれないと思ったのが、調査・研究の仕事に関心をもつきっかけだったような気がします。

9. 新入生に一言お願いします。

いろんな経験をして下さい。それが人生の財産です。



森 剛志 (もり たけし)

1970 年生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業、京都大学大学院経済学研究科博士課程修了(博士号取得)。日本学術振興会特別研究員を経て、甲南大学経済学部教員。

主な著書「日本のお金持ち研究」(共著)、「日本のお医者さん研究」(共著)、「団塊ジュニアの医療と介護」(共著)。

1. 先生の専門分野は何ですか？

家計の経済、健康経済、行動経済

2. 先生の現在の研究テーマは何ですか？

経済格差。経済格差。積極財政

3. 上記のテーマを研究していて感じる社会的意義や面白さなどについて、どのようなことでも構いませんので教えてください！

日本の最大の問題は経済問題ではなく、人口問題です。国民の生活をよくして、若者が将来に希望をもち、家族をもつようになることが重要。

4. 先生が学生時代に最も熱中した「学び」や「活動」は何ですか？

海外を一人で旅すること。

5. 経済学を学んだことが、ご自身のものの見方や考え方にどのような影響を与えたと思いますか？

最初は世界観が狭く、法学を目指していました。でも、経済を勉強して、世界観を身に着けました。

6. 先生の授業やゼミで、学生に身につけてほしい力は何ですか？

物事の本質も見抜く力。

7. 研究やお仕事から気分転換したくなったときは何をされていますか？

スキー、旅行、庭のかたづけ、畑仕事。

8. 大学時代に将来の進路を決めるきっかけはありましたか？

大学の先生で憧れの授業をしている人がいた。こんな授業をしたいな、と思ったこと。

9. 新入生に一言お願いします。

人生では、うまくいかないことがあります。どうしようもないほどの屈辱をうけることもあります。でも、いつも心にバランスを。そして少しの勇氣と情熱を！



森本裕 (もりもとゆう)

2011年 京都大学経済学部卒

2013年 同研究科修士課程修了

2016年 同研究科博士課程修了

2016年 甲南大学 着任

1. 先生の専門分野は何ですか？

都市経済学と交通経済学です。

2. 先生の現在の研究テーマは何ですか？

交通経済学の中での、航空市場の分析が専門です。関西三空港（関西国際空港・伊丹空港・神戸空港）の需要分析をしたり、地方空港の活性化について研究しています。

また、地域経済にも関心があるので、新しく研究をしたいと思っています。

3. 上記のテーマを研究していて感じる社会的意義や面白さなどについて、どのようなことでも構いませんので教えてください！

交通政策について研究しているので、研究論文がまわりまわって実際の政策に役立つかもしれないというところです。学者は政治家や官僚ではないので、直接政策を決めるわけではありませんが、自分の論文が政策を考えるときに参考にしてもらえるとありがたいですね。

4. 先生が学生時代に最も熱中した「学び」や「活動」は何ですか？

ゼミ研究が楽しかったです。交通経済学のゼミに所属していましたが、「鉄道の連続立体交差化の費用便益分析」や「京都市営地下鉄の経営改善」をテーマに研究をしました。

5. 経済学を学んだことが、ご自身のものの見方や考え方にどのような影響を与えたと思いますか？

ニュースや新聞の解説よりも深い知識を持っているわけですから、経済現象が生じる理由についてかなり正確に理解できるようになるというのはメリットです。それで何かが変わるわけではありませんが、正しい理解と考え方を学生に伝えられればと思っています。

6. 先生の授業やゼミで、学生に身につけてほしい力は何ですか？

経済理論＝ミクロ経済学に基づく思考力です。ミクロ経済学は、数式を用いて経済を分析する手法なので、これを修得することによって、社会の複雑な動きを把握するのに役立ちます。

7. 研究やお仕事から気分転換したくなったときは何をされていますか？

旅行です。正確には、探索とか冒険といった方がいいかと思います。観光地にはあまり興味がなくて、アジアの途上国の集落とか、先進国であっても観光客が来ないような「地元感」があるところをうろつくのが好きです。

8. 大学時代に将来の進路を決めるきっかけはありましたか？

やはり、研究が面白かったというのが研究者を目指した理由です。企業に就職してサラリーマンをするよりも、大学で学者をする方が自分に向いていると思っていました。

9. 新入生に一言お願いします。

大学生活を楽しんでください！

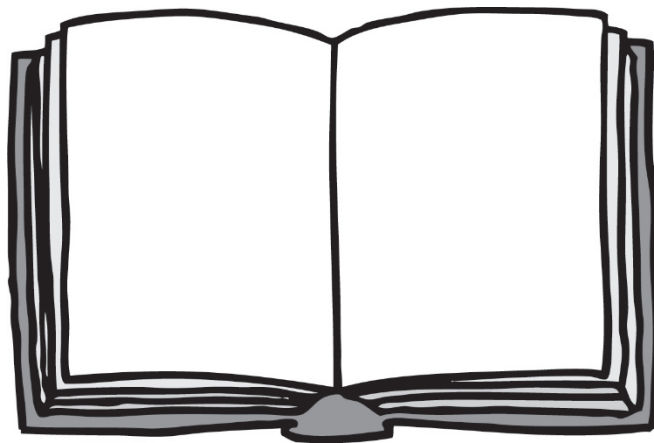


先輩からの学習アドバイス



大学ってどんな勉強
をするんだろう？

テスト勉強は何を
すればいいの？



先輩から学習アドバイス！

経済学部では必修科目として、「経済入門Ⅰ」「経済入門Ⅱ」「入門ミクロ経済学」「入門マクロ経済学」の4つを履修します。しかし、大学の授業を初めて受けるみなさんはどのように勉強すればいいのか、テスト対策はどのようにすればいいのかなど不安に思うことがたくさんあるかもしれません。そこで、経済学部の先輩が不安を解決したいと思います！（授業内容などは2024年度の情報を参考にしており、変更の可能性がございます。また、これらのアドバイスはあくまで先輩からの非公式のものであり、講義担当者の意図とは異なる場合がありますことをご理解ください。）

経済入門Ⅰ

【授業概要】

この授業は、大教室で講義を受ける「講義クラス」と、少人数でグループワーク等を行う「演習クラス」の2部構成で行われます。また、「講義クラス」の全15回が3人の先生方によるリレー形式で行われ、国際経済の動向、産業の特徴、市場のはたらきと失敗を理解したうえで、人々の福祉（幸福の度合い）を向上させる方法を学びます。（参考：2024年度シラバスより）

【普段の勉強方法】

- ・ 講義の中で、試験のヒントを貰えることが多かったのでしっかりと講義に出席して丁寧にノートを取っておくことが重要です。（2022年度 対面で履修）
- ・ まずは講義に休まず出席します。そして授業資料を用いて先生の講義を聞き、大事なところのメモをとりましょう。試験問題は授業資料から出されますので、授業資料を完璧に理解できたら試験で9割の点数は確実だと思います。（2022年度 対面で履修）
- ・ ミクロやマクロよりも記憶力が重要になるので、普段から講義に1限からしっかり行って毎授業覚えることが1番いいと思います。（2022年度 対面で履修）

【試験対策について】

- ・ 半期で3分野を学ぶことになるため、1つ1つの分野に丁寧に取り組むためにも早期から試験勉強を始めることが大切です。My KONANのQ&A機能で先生に質問をしたり、普段からノートテイクすることでテスト対策が楽になります。（2022年度 対面で履修）

経済入門Ⅱ

【授業概要】

この授業でも、「経済入門Ⅰ」と同様に「講義クラス」と「演習クラス」の2部構成で進められます。この授業では、世の中の経済活動におけるお金の流れについての基本的なしくみと、経済学における歴史的アプローチの重要性を学びます。全体は、「財政」「金融」「経済の歴史と思想」の3部から構成されます。（2024年度シラバスより）

【普段の勉強方法】

- ・ 3分野合わせるとかなりの量の授業資料があったので、資料に直接書き込んでいく形で勉強していました。苦手な分野などは、資料を見返すなど重点的に復習することが大切だと思います。（2022年度 対面で履修）
- ・ 経済入門Ⅱでは、金融・財政・経済の歴史と思想の内容を取り扱います。一見難しいように感じますが、講義に出席し、先生の話をしっかり聞いていれば理解できます。また、高校生の時に学んだ社会科目の内容と同じ部分もあります。それらを活かして内容を理解していくようにしましょう。（2022年度 対面で履修）
- ・ 後期で慣れてきて1限はきついかもかもしれませんが、講義に毎回出席することが重要だと思います。出席して頭の片隅にでも内容があれば、テスト前に思い出しやすいと思います。（2022年度 対面で履修）

【試験対策について】

- ・ 3分野を学ぶので暗記をしなければならないことが多いので、ノートにまとめ直すなど早めにテスト対策を始めておくことが重要だと思います。（2022年度 対面で履修）
- ・ 練習問題やテスト対策問題など先生方が提示してくださっている場合はそれを何も見なくても解けるようにすることがまずは大事です。また、練習問題などが無い場合は記憶力の問題だと思うので、しっかり内容を理解しながら記憶すればよいと思います。（2022年度 対面で履修）
- ・ 授業ノートをさらに整理したテスト対策ノートを作っていました。また、授業内で文章で説明する問題が出されたことがあったため、言葉をただ覚えるだけでなくその意味や内容、仕組みをきちんと説明できるように心がけて学習していました。なお、課題の復習や見直もテスト対策にとっても役立ちました。課題は出し終わってもテストが終わるまでは手元に残したほうがよいと思います。（2022年度 対面で履修）

入門ミクロ経済学

【授業概要】

「経済入門Ⅰ」「経済入門Ⅱ」と同様に、大教室で授業を受ける「講義クラス」1コマ、少人数でグループワーク等を行う「演習クラス」1コマの計2コマで行われます。この授業では、需要と供給について詳しく説明したのち、売買の帰結としての市場均衡について取り扱います。また、市場均衡が社会にとって望ましくなる条件や、望ましくない結果になったときに政府がどのように対処すべきかについて解説します。(2024年度シラバスより)

【普段の勉強方法】

- ・ 演習クラスで配布されたプリントを繰り返し見て復習していました。プリントはその回の授業内容に沿った問題が中心だったので、理解できるまでクラスメイトや先生に質問して疑問点を次の日に持ち越さないように心がけました。(2022年度 対面で履修)
- ・ 需要曲線と供給曲線を取り扱う問題が多いです。なので、曲線の仕組み・シフトを理解して、そこから読み取れることを把握できるようにすることが大切だと思います。私も最初は難しく理解できませんでしたが、授業と予習・復習を重ねるとだんだん理解できるようになっていきました。(2022年度 対面で履修)
- ・ 需要と供給の理解ができていないと、苦しいのでまずはそこを理解した上で勉強すべきだと思います。また、自分でグラフを描けるようになることも重要です。(2022年度 対面で履修)

【試験対策について】

- ・ 授業中に配られたプリントの問題を繰り返し解いて、何も見なくても解けるようにしました。また、中間テストや中間レポートもしっかり見直してテストに挑みました。(2022年度 対面で履修)
- ・ 需要曲線と供給曲線を取り扱う問題が多いです。なので曲線の仕組み・シフトを理解して、そこから読み取れることを把握できるようにすることが大切だと思います。私も最初は難しく理解できませんでしたが、授業と予習・復習を重ねるとだんだん理解できるようになっていきました。
- ・ 需要と供給の理解ができていないと、苦しいのでまずはそこを理解した上で勉強するべきだと思います。また、自分でグラフを描けるようになることも重要です。

入門マクロ経済学

【授業概要】

マクロ経済学の基礎を学びます。「マクロ経済学」とは、一国の経済を俯瞰的かつ全体的に捉え、その仕組みを明らかにする経済学の基礎的な分野です。マクロ経済学の主な課題は、一国の経済活動の規模やその変化が、どのような要因によって、いかにして決定されるのかを分析して、私たちの生活や人生に大きな影響を与えうる景気循環や経済成長などが生じる原因と仕組みを明らかにすることです。本授業科目では、そのために必要となる基礎的な諸概念とそれらの間の相互関係について学びます。（2024年度シラバスより）

【普通の勉強方法】

- ・ マクロ経済学では多くの公式を用います。公式を覚える時に、ただ記号の羅列で暗記するだけでは実際に問題を解く時に応用できません。なので、記号が表していることは何なのかと公式が成り立つ経緯を理解したうえで問題に望むと解きやすいと思います。（2022年度 対面で履修）
- ・ 後から見返したときにもよく分かるように、講義のノートを丁寧にまとめることを心がけました。また、演習クラスで解く練習問題を何度も解き直しました。（2022年度 対面で履修）
- ・ 計算問題がミクロに比べて多くなるので、計算力が必要になります。問題から必要な数字を汲み取ることと公式を覚えることが勉強する上で基本的には重要だと思います。（2022年度 対面で履修）

【試験対策について】

- ・ 授業中の練習問題や中間テストを最低2回は解き直して、テストに挑みます。講義のノートが丁寧にあればあるほどテスト対策の効率がアップします。（2022年度 対面で履修）
- ・ 試験勉強は1人でするときと、友達とするときの両方の時間を設けました。1人でするときは分からないことをピックアップしたり、ノートにまとめたりします。それを友達とするときには共有し、分からないことについて質問したり答えたりします。そしてまた1人でするときに暗記、練習問題を繰り返します。そうすると効率よく勉強できました。（2022年度 対面で履修）

卒業生からの
メッセージ

新入生の皆さんへ

2025 年度卒業生
村澤ゼミナール 源内 雄貴

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

つい先日まで受験勉強に励んでいた皆さんにとって、大学は驚くほど自由な場所に映っていることでしょう。卒業を控えた今、私が皆さんに一番伝えたいのは、「大学生活は、自分で動かなければ何も起こらない。一方で、自分で動けばどこまでも世界を広げられる場所だ」ということです。

「人生の夏休み」とも言われる大学生活ですが、何もしなければ4年間は一瞬で過ぎ去ります。だからこそ、どんな小さなことでも構いませんから、「これに興味がある」「こうなりたい」という自分なりの目的意識という名のアンテナを常に立てておいてください。部活動や留学、あるいは趣味を極めることでも良いでしょう。自分から一步踏み出した経験こそが、卒業する時に「この大学に来てよかった」と思える確かな手応えになります。

また、これから経済学部で学ぶ皆さんには、ぜひ「世の中を読み解く力」を身につけてほしいと思います。1年生のうちには基礎理論が多く、退屈に感じることもあるかもしれませんが、しかし、そこで学ぶ視点は、ニュースの裏側や社会の仕組みを理解するための「一生モノの武器」になります。講義で得た知識を自分なりに社会と結びつけて考える姿勢を大切にしてください。

皆さんの前には、無限の可能性が広がっています。失敗を恐れず、この自由な4年間を存分に謳歌してください。皆さんの大学生活が、実り多き素晴らしいものになることを心より応援しています。

新入生の皆さんへ

2025 年度卒業生
石川路子ゼミナール 濱田 美優

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！

この冊子が手元に届く頃は大学生活に対し、期待と不安でいっぱいだと思います。私は正直、今その感情を持っている皆さんが羨ましいです。

皆さんが羨ましいと思う理由はなにか。それはとても単純で、私自身の大学生活が楽しすぎたからです。もう1度はじめから経験したいと思ってしまうほどに充実したものでした。顔も知らない卒業生のメッセージを見たところで皆さんの大学生活にはあまり影響はないかもしれません。でも、ここまで見てくださっている優しく真面目な方に少しでも得になるようなことを伝えようと思います。

私の大学生活は「人脈」でできていたと思います。経済学部と同学年の誰よりも大学の中で顔を知られていたと自負しています。これは自意識過剰なんかではないと、経済学会の私の後輩に聞けば、証明してくれると思います。私はとにかくいろんな人と接しようと思いつつ、行動していました。人と関わろうとする理由は「自分の得になるから」です。損得で動くなると最低だと思われるかもしれません。でも、結果からそういえるのです。得られる情報がたくさんあるのに知らないなんてもったいなくないですか？ネットでも、本でもなく、人間からしか得られないものが私はあると思います。それが何かは皆さんが実感してみてください。

最後に大学生活で大事なことを短めに伝えようと思います。「人を知ろう」「単位を取ろう」「自己肯定感をあげよう」の3つを意識すれば、私は大学生活が充実したものになると思っています。

4年間の大学生活を思う存分、楽しんでください！



経済学会について

経済学会へようこそ！

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます！甲南大学経済学部に入學したみなさんは同時に「甲南大学経済学会」の会員となりました。

経済学会とは？

甲南大学経済学会とは、専任教員・経済学部生・大学院学生で構成されています。経済学会は、経済学部教員・学生と相互にコミュニケーションをとりながら、皆さんがより良い大学生活を送れるように日々活動を行っています。

主な行事紹介

・講演会(5月 10月)

経済学会では前期と後期に1回筒講演会を企画し、実施しています。講演会では外部の方に講演をしていただいています。

・ゼミ紹介(2回生以上対象)

後期から始まるゼミⅠを選択する際に参考にできます。対象は、2回生以上ですが、1回生もゼミについて知ることのできる機会です。

・経済学部インナーゼミナール大会(12月)

ゼミ担当教員のもとで学生が研究活動を行う授業である『ゼミ』において行った研究成果を発表する大会です。経済学会が企画・運営する最大の行事です。



～講演会の様子～

詳しく知りたい方は、右記のQRコードから
甲南大学経済学会ホームページをご覧ください



←経済学会 HP
QRコード

～学生評議員・スタッフにインタビュー～

経済学会に入ったきっかけは何ですか？



私が経済学会に入ったきっかけは、経済学会という組織の存在を知り、実際に経済コモンルームへ足を運んでみたことでした。大学生活について全くわからない私の疑問に対して、先輩が1つ1つ丁寧に回答してくださりました。「経済学会の先輩」は、なにもわからない私にとって、とても心強い存在でした。私もいつか学生にとって心強い存在だと思われるようなサポートをしてみたい、と思い、経済学会に入ることを決めました。

経済学会に入ってよかったことはありますか？



経済学会に入ってよかったと感じることは沢山ありますが、特に社会に出た後に役立つ知識が活動を通して自然と身につく点でよかったと感じています。例えば、先生方や外部の方に対してメールをお送りしたり、学生自らアイデアを出したり、提案することがあります。これは、経済学会に所属したからこそできる経験であり、とても貴重な体験であったと感じます。



経済学会メンバー募集！

経済学会に興味がある方はコモンルーム(5号館5階)へ！

経済学会ではX(旧Twitter)にて活動風景などを投稿しています

DM、質問箱などで質問も受け付けております！

是非ご覧ください！

X(旧Twitter)

QRコード➡



甲南大学 経済学会会則



甲 南 大 学 経 済 学 会 会 則

昭和 35 年 2 月 24 日	制定承認
昭和 41 年 12 月 14 日	改正承認
昭和 44 年 10 月 16 日	経済学会集会改正承認
昭和 49 年 5 月 16 日	経済学会総会改正承認
昭和 52 年 5 月 18 日	経済学会総会改正承認
昭和 58 年 5 月 25 日	経済学会総会改正承認
平成 2 年 5 月 30 日	経済学会総会改正承認
平成 3 年 5 月 29 日	経済学会総会改正承認
平成 4 年 5 月 27 日	経済学会総会改正承認
平成 6 年 5 月 25 日	経済学会総会改正承認
平成 8 年 5 月 29 日	経済学会総会改正承認
平成 9 年 5 月 28 日	経済学会総会改正承認
平成 13 年 5 月 30 日	経済学会総会改正承認
平成 15 年 5 月 28 日	経済学会総会改正承認
平成 16 年 5 月 26 日	経済学会総会改正承認
平成 20 年 5 月 28 日	経済学会総会改正承認
平成 21 年 5 月 27 日	経済学会総会改正承認
令和 4 年 5 月 25 日	経済学会総会改正承認
令和 7 年 5 月 28 日	経済学会総会改正承認

第 1 条 本会は、甲南大学経済学会と称し、事務所を甲南大学経済学部内におく。

第 2 条 本会は、全員加盟を原則として、甲南大学経済学部生・甲南大学院社会科学部研究科経済学専攻の大学院生ならびに甲南大学経済学部の専任教員によって組織する。また、学部卒業生・大学院修了者のうち入会を希望する者、その他本会評議員会において入会を認めた者も加入することができる。

第 3 条 会費については以下のとおりに定める。

教 員	年 会 費	5,000 円
学 部 学 生	会 費 (在学期間)	20,000 円
大 学 院 学 生	会 費 (在学期間)	10,000 円

又、卒業生会員の権利および義務については、別に細則を定めるものとする。

なお、いったん納入された会費は、理由のいかんに関わらず返還しない。

第 4 条 本会は、経済学の研究ならびに普及をもって目的とする。

第 5 条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. インナーゼミナール大会
2. 講演会
3. 研究会
4. 甲南経済学論集および経済学学生論集の発行
5. 学会ニュースの発行
6. 研究・教育資料の収集・管理
7. 専任教員による研究書の刊行助成
8. その他本会の目的を達成するために必要と認める事項

第 6 条 本会の最高議決機関として総会を置く。本会の予算と決算は総会の承認を得なければならない。総会規程は別に定める。

第 7 条 総会は、本会の事業を運営するために評議員を選出する。評議員会は、経済学部長を含む専任教員 8 名、学生 8 名以上 20 名以下により構成され、任期は 1 年とする。評議員会規程は別に定める。

第 8 条 評議員長は経済学部長が兼任する。評議員長は本会を代表し、総会および評議員会を招集する。

第 9 条 評議員会は互選により次の役員を選出する。

1. 総務委員（教員 1 名ならびに学生 1 名以上）は、評議員間の連絡・調整にあたり、評議員会の事務と記録を統括する。

2. 会計委員（教員 1 名ならびに学生 1 名以上）は、本会の事業経費を管理する。
3. 管財委員（教員 1 名ならびに学生 1 名以上）は、本会の備品の管理及び本会のホームページ、SNS 等の更新を行う。
4. 編集委員（教員 2 名ならびに学生 1 名以上）は、甲南経済学論集、経済学学生論集、学会ニュース等の定期刊行物の編集・発行にあたる。
5. 企画委員（教員 2 名ならびに学生 1 名以上）は、研究会、講演会、インナーゼミナール大会、その他本会の目的を達成するための事業を企画する。

なお、評議員会は必要に応じて会員の中から本会の活動に協力する実行委員を委嘱することができる。

第 10 条 評議員会は、本会の事業活動を円滑に行うための諮問・連絡機関としてゼミ委員会を招集することができる。

第 11 条 本会の事業とそれにとまなう予算の執行を厳正・公平に対処すべく、教員 1 名ならびに学生 1 名の監査委員を置く。監査委員は総会において選出され、任期は 1 年とする。

第 12 条 本会の経費は、会費・事業収入・寄付金および甲南大学からの助成金をもってこれにあてる。

第 13 条 本会則は、総会規程第 6 条に基づいて改正することができる。

総 会 規 程

昭和 44 年 10 月 16 日	経済学会集会制定承認
平成 6 年 5 月 25 日	経済学会総会改正承認
平成 4 年 5 月 25 日	経済学会総会改正承認
令和 4 年 5 月 25 日	経済学会総会改正承認

第 1 条 総会は、経済学会会員全員によって構成され、その決議はすべてに優先する。

第 2 条 原則として毎年 5 月に定期総会が開催されなければならない。

第 3 条 評議員長は、次の場合 2 週間以内に臨時総会を招集しなければならない。

1. 評議員会が必要と認めたとき
2. 経済学部教員 3 分の 2 以上の要求があったとき
3. 学生会員 50 名以上の要求があったとき
4. 卒業生会員 50 名以上の要求があったとき

第 4 条 総会は、卒業生会員を除く全会員の 5 分の 1 以上の出席により成立する。ただし、委任状は出席定数に算入することができる。

第 5 条 総会の決議は、出席会員の過半数の同意を必要とする。ただし、決議にあたっては委任状は算入されない。

第 6 条 経済学会会則の改正は、出席会員の 3 分の 2 以上の同意を必要とする。ただし、決議にあたっては委任状は算入されない。

評 議 員 会 規 程

昭和 44 年 10 月 16 日 経済学会集会制定承認
昭和 52 年 5 月 18 日 経済学会総会改正承認
平成 20 年 5 月 28 日 経済学会総会改正承認
平成 21 年 5 月 27 日 経済学会総会改正承認
平成 22 年 5 月 19 日 経済学会総会改正承認
令和 4 年 5 月 25 日 経済学会総会改正承認

- 第 1 条 評議員会は、経済学会会則に定められた事業の運営を行い、その事業を達成させるために評議員は評議員会に出席するよう努めなければならない。
- 第 2 条 評議員会は、次の事項について総会の承認を得なければならない。
1. 予算および決算
 2. 活動報告
 3. その他評議員会が必要と認めた事項
- 第 3 条 評議員長は、原則として毎月 1 回定期評議員会を招集しなければならない。
- 第 4 条 評議員長は、次の場合 10 日以内に臨時評議員会を招集しなければならない。
1. 評議員長が必要と認めたとき
 2. 評議員 3 名以上が必要と認めたとき
 3. 学生会員 30 名以上の要求があったとき
 4. 卒業生会員 30 名以上の要求があったとき
- 第 5 条 評議員会は評議員の過半数をもって成立する。ただし、委任状は出席定数に算入することができる。
- 第 6 条 評議員の決議は、出席評議員の過半数の同意を必要とする。ただし、決議にあたっては委任状は算入されない。
- 付 則 4 年次に評議員に就任した学生は卒業をもって退任とする。また、評議員の辞任は、評議員長へ辞任届を提出しなければならない。その書式は別に定める。

卒 業 生 ・ 修 了 者 会 員 細 則

昭和 52 年 5 月 18 日 経済学会総会制定承認
平成 20 年 5 月 28 日 経済学会総会改正承認
令和 4 年 5 月 25 日 経済学会総会改正承認

- 第 1 条 甲南大学経済学部卒業生及び社会科学研究科経済学専攻の修了者のうち、経済学会への入会を希望する者（以下「卒業生会員」とよぶ）は、氏名、卒業年度または修了年度、現住所を経済学会評議員会に申請し、「卒業生会員証」の交付を受けるものとする。申請は学位授与式 2 ヶ月前からできるものとする。
- 第 2 条 経済学会への入会を引き続き希望する者は、毎年 1 月から 3 月末までの間に、登録の更新を行わなければならない。なお、卒業生会員は、現住所の変更をすみやかに評議員会に届け出なければならない。

- 第3条 卒業生会員は、登録またはその更新の際、会費年4,000円を納入しなければならない。ただし、2年以上の登録と会費納入を一括して行うことはできる。入会金納入の義務はない。
- 第4条 卒業生会員は、経済学会すべての事業に参加し、そのサービスを受けることができる。ただし、卒業生会員は、評議員に就任することはできず、また「総会規程」第4条にもとづいて総会での投票権をもたない。
- 第5条 本細則は、総会の決議によって改正することができる。